



平成 29 年度 第 1 回 横浜市救急医療検討委員会 次第

平成 29 年 9 月 20 日 (水) 19:00~  
横浜市健康福祉総合センター 6 階 会議室

---

1 開 会

2 あいさつ (医療局長)

3 委員紹介

4 委員長・副委員長の選任

5 議 事

(1) 検討課題について

【資料 1】(P 1)

【資料 2】(P 5)

(2) 専門部会の設置について

【資料 3】(P39)

(3) 検討スケジュール

【資料 4】(P41)

6 その他

7 閉 会

---



## 平成29・30年度横浜市救急医療検討委員会 委員名簿

	氏 名	選出区分	現職・履歴等
1	エビス 恵比須 ススム 享	医療関係者 (医師)	一般社団法人 横浜市医師会 常任理事 えびすクリニック
2	クリハラ 栗原 ミホコ 美穂子	医療関係者 (看護師)	一般社団法人 横浜在宅看護協議会 会長
3	クロダ 黒田 ヨウコ 陽子	有識者 (弁護士)	神奈川県弁護士会推薦弁護士 横浜ランドマーク法律事務所
4	タクウチ 竹内 イチロウ 一郎	医療関係者 (医師)	横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター部長 横浜市立大学大学院医学研究科救急医学主任教授
5	トヨダ 豊田 ヒロシ 洋	医療関係者 (医師)	社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市南部病院 救急診療科 診療部長
6	ニイノウ 新納 ケンジ 憲司	医療関係者 (医師)	公益社団法人 横浜市病院協会 会長 特定医療法人財団慈啓会理事長
7	ハラ 原 クミ 久美	医療関係者 (看護師)	公益社団法人 神奈川県看護協会 横浜北支部長 医療法人平和会 平和病院看護部長
8	ヒラモト 平元 マコト 周	医療関係者 (医師)	公益社団法人 横浜市病院協会 副会長 横浜総合病院院長
9	ホドシマ 程島 マサオ 正雄	市民代表	横浜市民生委員児童委員協議会理事 中区民生委員児童委員協議会会長
10	ミスノ 水野 キョウイチ 恭一	医療関係者 (医師)	一般社団法人 横浜市医師会 会長 水野クリニック院長

五十音順・敬称略

※任期は、平成29年9月20日から平成31年3月31日までとなります。



# 平成29年度第1回横浜市救急医療検討委員会 席次表

平成29年9月20日(水)19:00~

横浜市健康福祉総合センター6階会議室

出入口

恵比須 享 委員 ○

栗原 美穂子 委員 ○

黒田 陽子 委員 ○

竹内 一郎 委員 ○

豊田 洋 委員 ○

○ 新納 憲司 委員

○ 原 久美 委員

○ 平元 周 委員

○ 程島 正雄 委員

○ 水野 恭一 委員

出入口

--	--	--	--	--	--	--	--	--

○ 田中

消防局救急課担当係長

○ 西川

消防局救急課長

○ 山田

消防局救急担当部長

○ 修理

医療局医療医務監

○ 増住

医療局長

○ 田中

医療局副局長(医療政策部長)

○ 藤井

医療局疾病対策部長

○ 栗原

医療局医療政策課救急・災害医療担当課長

○ 小松

医療局医療政策課救急・災害医療担当係長

事務局		
-----	--	--

傍聴席		
-----	--	--

<事務局>

医療局		消防局	
医療局長	増住 敏彦	救急担当部長	山田 裕之
医療医務監	修理 淳	救急課長	西川 浩二
副局長(医療政策部長)	田中 靖	救急課担当係長	田中 謙二
医療政策課 救急・災害医療担当課長	栗原 政幸		
医療政策課 救急・災害医療担当係長	小松 順		
医療政策課 救急・災害医療担当係長	吉元 景		
医療政策課 救急・災害医療担当係長	大野 和義		

<オブザーバー>

医療局	
疾病対策部長	藤井 裕久
医療政策課長	倉本 裕義
がん・疾病対策課 在宅医療担当課長	西野 均
医療政策課担当係長	岩崎 雄介
がん・疾病対策課担当係長	岡 利香

医療局医療政策課

TEL 045-671-3932

FAX 045-664-3851

# 横浜市救急医療検討委員会運営要綱

制 定 平成 25 年 4 月 25 日 健救第 39 号（局長決裁）

最近改正 平成 28 年 4 月 1 日 医が第 1391 号（局長決裁）

## （趣旨）

第 1 条 この要綱は、横浜市附属機関設置条例（平成23年12月横浜市条例第49号）別表に規定する横浜市救急医療検討委員会（以下「委員会」という。）の運営に必要な基本事項を定める。

## （担当事務）

第 2 条 横浜市附属機関設置条例第 2 条第 2 項に規定する委員会の担任する事務の細目については、次に掲げるものとする。

- （1） 横浜市の救急医療の充実に関すること
- （2） その他、委員会において調査・検討が必要とされる事項

## （委員）

第 3 条 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- （1） 市民
- （2） 医療関係者
- （3） 有識者
- （4） 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

2 委員の任期は、2 年以内とする。ただし、再任は妨げない。

3 委員が欠けた場合は、補欠の委員を委嘱することができる。ただし、その任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員の代理は、認めないこととする。

## （臨時委員）

第 4 条 委員会に、救急医療に関する専門的事項を調査審議させるため必要があるときは、臨時委員若干人を置くことができる。

2 臨時委員は、救急医療に関する専門的知識をもつ者のうちから市長が任命する。

3 臨時委員は、第 1 項の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されたものとする。

## （委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に、委員長及び副委員長をそれぞれ 1 人置く。

2 委員長は、委員の互選により定め、副委員長は、委員長が指名する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

## （会議）

第 6 条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、委員会の会議の議長とする。

3 委員会の会議は、委員（臨時委員を含まず。）の半数以上の出席がなければ開催する

ことはできない。

4 委員会の議事は、出席委員（臨時委員を含まず。）の過半数で決し、可否同数の場合は委員長の決するところによる。

#### （専門部会）

第7条 特定の分野の救急医療体制について専門的に検討を行うため、委員会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、委員若干人及び臨時委員をもって組織し、委員会から付託された専門的な検討を行う。

3 専門部会に、部会長1人を置き、委員長が指名する。

4 部会長は、専門部会を代表し、会務を掌理する。

#### （会議の公開）

第8条 横浜市の有する情報の公開に関する条例（平成12年2月横浜市条例第1号）第31条の規定により、委員会の会議については、一般に公開するものとする。ただし、委員の承諾があれば、会議の一部または全部を非公開とすることができる。

2 会議の傍聴を希望する者（以下「傍聴者」という。）は、会場の受付で氏名及び住所を記入し、係員の指示により、傍聴席に入らなければならない。

3 傍聴者の定員は、委員長が定めることとし、申込み先着順とする。

4 傍聴者は、委員長の指示に従い、委員長はこれに違反する者に、会場からの退去等必要な命令を行うことができる。

5 会議を非公開とするときは、委員長は、その旨を宣告するものとする。

6 会議を非公開とする場合において、会場に傍聴者がいるときには、委員長は、その指定する者以外の者及び傍聴者を会場から退去させるものとする。

#### （報酬）

第9条 委員の報酬は、14,000円とする。

#### （意見の聴取等）

第10条 委員長又は部会長は、委員会又は専門部会の会議の運営上必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

#### （庶務）

第11条 委員会の庶務は、医療局において処理する。

#### （委任）

第12条 この要綱に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

#### 附 則

##### （施行期日）

1 この要綱は、平成25年4月25日から施行する。

##### （要綱の廃止）

2 横浜市救急医療検討委員会設置要綱（平成17年7月13日制定）は、廃止する。



附 則  
(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則  
(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則  
(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。



平成29年度第1回救急医療検討委員会 説明資料

<平成29年9月20日>

資料1 横浜市の救急医療体制について (P 1)

資料2 検討課題について (P 5)

資料3 専門部会の設置について (P 39)

資料4 検討スケジュール (P 41)



# 横浜市の救急医療体制



横浜市人口 3,733,886人 (2017.8.1)  
(北部医療圏 1,581,116人 西部医療圏 1,106,138人 南部医療圏 104,662人)

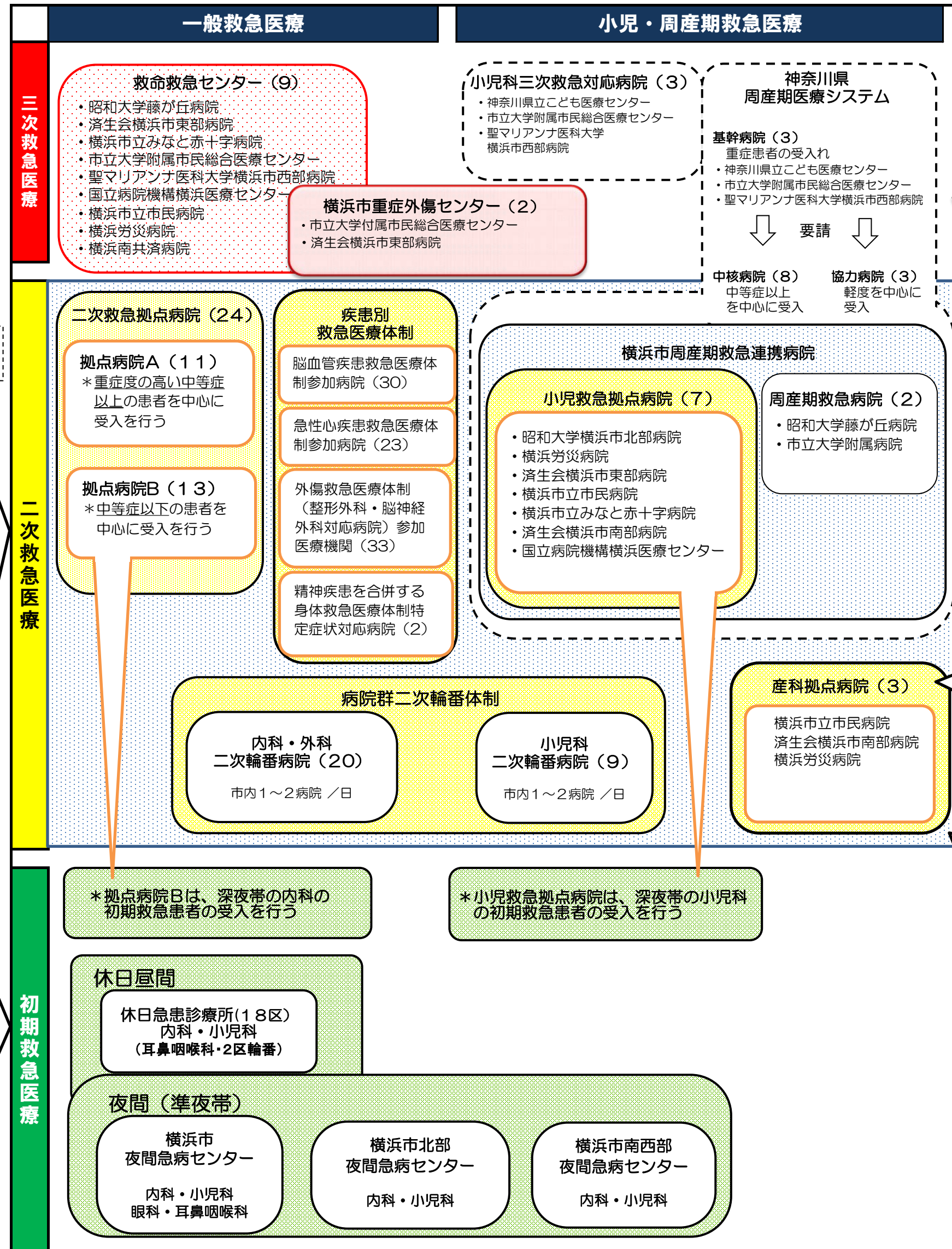
## 横浜市の政策1 「二次救急拠点病院の整備」

- \* 横浜市の新たな二次救急医療体制は、市域全域(3医療圏)を対象として、24時間365日救急搬送患者に対応する「二次救急拠点病院」と、全国で一般的な「病院群輪番病院」を併用した、本市独自の二次救急医療体制で、22年4月から運用を開始。
- \* 二次救急拠点病院は、24時間365日、内科・外科の救急搬送の受入に対応する病院で、AとBに分けて本市が指定。
- \* 比較的重症度の高い中等症以上の患者を中心に受け入れる病院を二次救急拠点病院A、比較的重症度の低い患者を中心に受け入れる病院を二次救急拠点病院Bと位置づけ。
- \* 現在、市内24病院が指定。

- (参考)主な効果
- \* 本市全体の救急搬送件数が増加する中、二次救急拠点病院、輪番病院全てが救急搬送患者受入に対応し、いずれの病院も夜間・休日の救急搬送患者受入数が増加している。
  - \* 横浜市が目指すべき方向である、市内各病院の診療機能に応じた機能分化や傷病者の重傷度・緊急度に応じた受入体制が進みつつある。
  - \* 夜間・休日二次救急受入体制  
拠点病院 24+ 輪番病院 1~2

## 横浜市の政策2 「初期救急救急医療体制の充実・強化」

- \* 休日日中の医療体制  
各区休日急患診療所(18か所) → 内科・小児科 (耳鼻咽喉科・2か所輪番)
- \* 夜間の医療体制  
① 準夜帯の対応(20時~24時)  
夜間急病センター(3か所) → 内科・小児科 (眼科・耳鼻咽喉科)
- ② 深夜帯の対応(0時~翌8時30分頃)  
二次救急拠点病院B → 内科  
小児救急拠点病院 → 小児科



## 横浜市の政策3 「横浜市重症外傷センター」

- \* 市の外傷診療の拠点として、交通事故や多発外傷などの重症外傷患者の救急搬送を24時間体制で受け入れる外傷センターを行政主導で整備。
- \* 救命救急センターに併設して整備。
- \* 重症外傷の救急搬送基準を策定。

(期待される効果)

- ・搬送困難事案の解消。
- ・症例増による外傷診療水準の質の向上(外傷系医師の技術力向上及び、負担軽減による、より良い労働環境)

## 横浜市の政策4 「小児救急拠点病院の整備」

- \* 小児科二次輪番制参加病院が減少してきたことから、本市独自に、24時間365日体制で小児科二次救急患者の受入れを行う「小児救急拠点病院」を7病院を指定し、小児救急医療体制の維持・確保。
- \* 小児救急拠点病院の指定による小児科医の集約化により、良好な労働環境の中での適切な患者受入れと医療提供が可能。更に、夜間・休日を含め常時2人以上の常勤医による診療体制を確保できる体制として、小児科常勤医11人以上の体制確保を推奨し、人件費の一部を助成。

(参考)29年4月1日時点の実績  
11人以上体制の小児救急拠点病院  
7病院中6病院 (7病院平均 13.1人)

## 横浜市の政策5 「産科拠点病院の整備」

- \* 二次救急患者を、24時間体制で受入。
- \* 夜間・休日に2人以上の産科医による当直体制。
- \* 産科常勤医10人以上の体制確保。
- \* 未受診妊婦等受入困難な患者を受入。

## 横浜市の政策6 「疾患別救急医療体制の整備」

- \* 脳血管疾患救急医療体制、急性心疾患救急医療体制、外傷救急医療体制(整形外科・脳神経外科対応病院)
- \* 緊急性を要することや搬送困難になりやすい個別の疾患の応需情報を、横浜市救急医療情報システム(YMIS)を用いて、病院から救急隊にリアルタイムに提供し、迅速な救急搬送。
- \* 体制参加病院の連絡会・研究会を開催、治療実績の分析、公表などを行い、市全体としての医療水準を向上。

## 横浜市の政策7 「精神疾患を合併する身体救急医療体制の整備」

- \* 精神疾患を合併する身体救急患者については、搬送困難になりやすいことから、特定の症状がある方については精神科体制の整った特定症状対応病院に搬送することとし、それ以外の方については、一般の救急医療機関に搬送。
- \* 一般の救急医療機関搬送後に特定症状が発現した場合は、特定症状対応病院がバックアップする体制を構築。

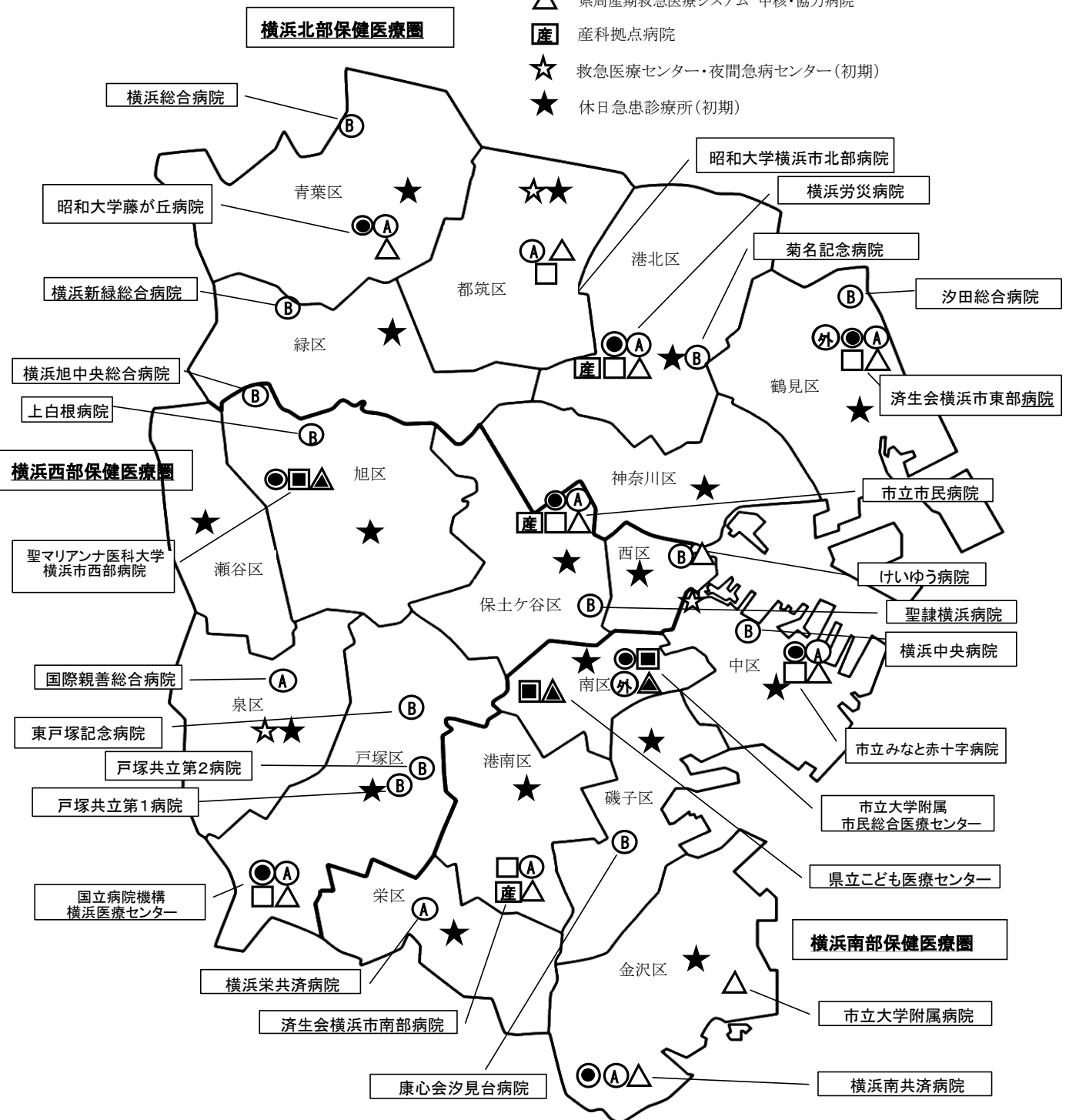
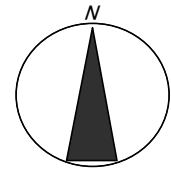


# 横浜市の主な救急医療機関の配置状況

【H29. 4. 1更新】

三次救急医療 … 生命に危険のある重篤患者に対する救急医療  
 二次救急医療 … 入院治療が必要な中等症・重症患者に対する救急医療  
 初期救急医療 … 外来診療により帰宅可能な軽症患者に対する救急医療

- 救命救急センター(三次)
- A 二次救急拠点病院A
- B 二次救急拠点病院B
- 外 重症外傷センター
- 小児科三次救急対応病院
- 小児救急拠点病院
- ▲ 県周産期救急医療システム 基幹病院
- △ 県周産期救急医療システム 中核・協力病院
- 産 産科拠点病院
- ☆ 救急医療センター・夜間急病センター(初期)
- ★ 休日急患診療所(初期)







## ■ 平成 29・30 年度救急医療検討委員会の検討課題

横浜市では、

- ①初期救急医療として、夜間急病センターや休日急患診療所、救急相談センター「#7119」の整備
  - ②二次救急医療として、二次救急拠点病院A・Bや輪番病院、疾患別救急医療体制等の整備
  - ③三次救急医療として、市内9か所に救命救急センターの整備
- 等に取り組み、症状に応じたきめ細やかな独自の救急医療体制を構築してきました。

そうした中で、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、本市における高齢者は約100万人になると見込まれており、高齢者の救急需要の大きな増加が見込まれています。今後、高齢救急の円滑な受け入れが進むよう、救急医療体制の更なる強化を目指していく必要があります。

そこで、本委員会において次の事項のご検討をよろしくお願いいたします。

### 【検討テーマ】急速に進展する超高齢社会における救急医療体制の強化について

- ◎現行の初期・二次・三次救急医療体制が、今後も増加し続けていく高齢者の救急需要に対応できるものであるのか検証を実施。
- ◎そのうえで、特に救急需要の増加が見込まれる二次救急医療を中心に、「超高齢社会における救急医療の受入体制の強化」を目指した検討を進める。

### 《参考》

#### 第7次提言（平成27・28年度）

高齢者の救急医療に係る施策として、受療が必要な高齢者を円滑に医療に結び付ける、救急搬送時間の短縮などの視点から、次の提言を受けました。

- ①受診の必要性を判断するフェーズとして、「救急相談センター（#7119）」の周知・活用
- ②救急搬送されるまたは救急医療を受診するフェーズとして、高齢者の情報共有ツールの有効活用
- ③医療機関で治療後の退院時や退院後のフェーズとして、救急医療機関と高齢者施設等の連携強化に向けた連携会議の普及



## ■ 課題検討の方向性（概略）

超高齢社会における救急医療体制の検証と強化に向け、次の視点から課題の検討を進めます。

### 1 初期救急医療体制

- ◎「夜間急病センター」・「休日急患診療所」の利用状況の検証
- ◎救急相談センター「#7119」の利用状況の検証

⇒ 特に、救急相談センター「#7119」の検証とその活用に焦点をあて、適正な救急搬送及び夜間ウォークイン受診を促し、二次救急医療機関の受入負担の緩和も図るなどの視点から、市民啓発の強化等について検討を進めます。

### 2 二次救急医療体制

- ◎救急搬送件数が特に大きく増加する軽症・中等症の高齢者患者や、同様に増加する重症の高齢者患者を、現行の二次救急医療体制により受入可能であるかの検証

※高血圧症・糖尿病などの複数の基礎疾患を抱え、合併症を併発するといった、高齢者特有の病状も考慮

※急増が見込まれる在宅医療との連携の視点

⇒ 救急搬送の多くを占める「二次救急拠点病院A・B」、「輪番病院」を中心に二次救急医療体制の検証を進め、高齢者の救急搬送の受入が円滑に進む新たな体制の構築を含め、量質の視点から高齢者の受入体制の強化について検討を進めます。

- ◇二次救急拠点病院A … 主に中等症以上を受入
- ◇二次救急拠点病院B … 主に中等症以下を受入。  
夜間の内科のウォークイン患者を受入
- ◇輪番病院 … 主に中等症以下を受入

### 3 三次救急医療体制

- ◎「救命救急センター」の検証
- ◎別途医療局に設置予定のワーキンググループによる「横浜市重症外傷センターの検証結果」も参考とする

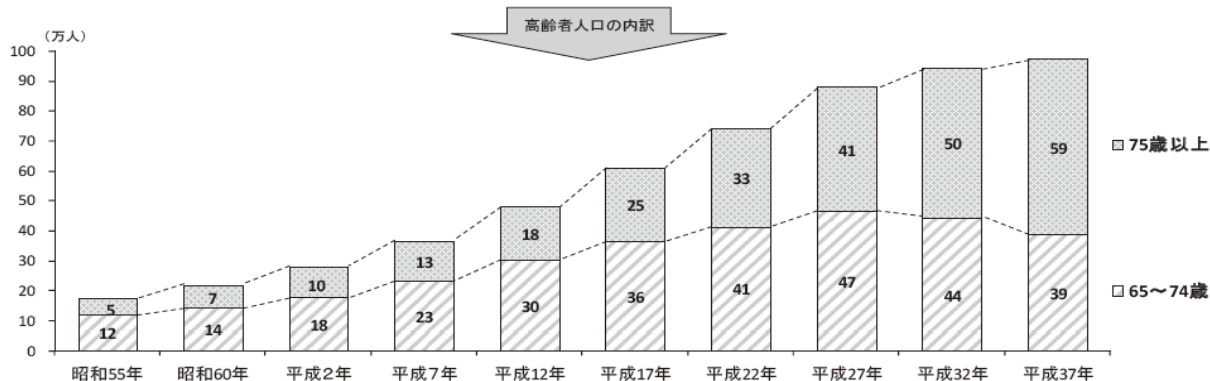
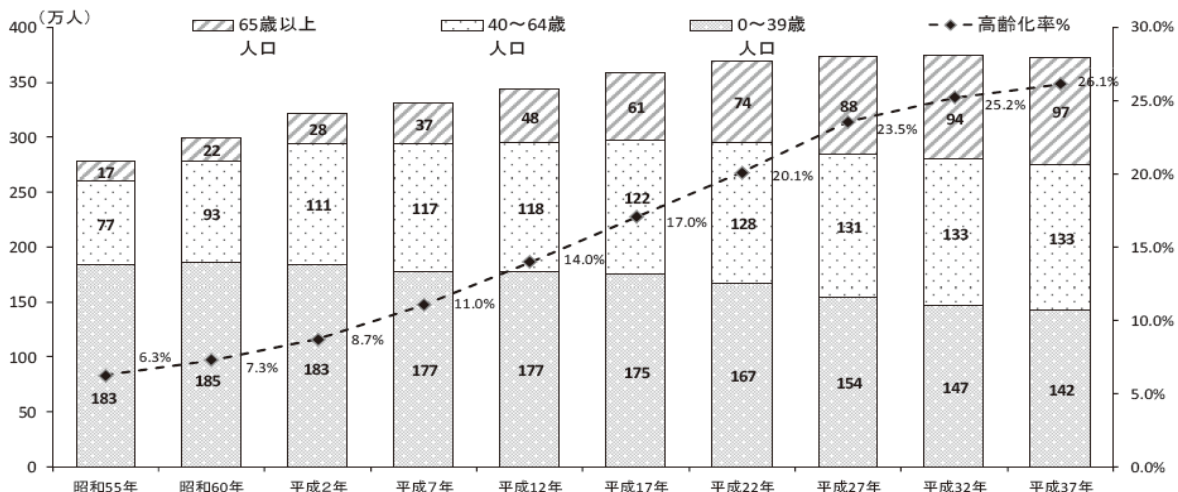
⇒ 高齢者を中心に救急搬送需要の増加が見込まれている中で、重症・重篤患者の受け入れを担う救命救急センターの機能を維持できるか検討を進めます。



# ■ 横浜市の人口の推移

団塊の世代が75歳以上となる2025年（平成37年）には、高齢者人口（65歳以上）は約97万人、高齢化率は26.1%に達すると見込まれています。

高齢者人口に占める後期高齢者数（75歳以上）は、平成32年には前期高齢者（65歳～74歳）を上回り約50万人となり、平成37年には約59万人になると見込まれています。



< 第6期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画より >  
 ※国政調査結果、横浜市将来人口推計より算出  
 ※端数処理をしているため、合計が一致しない場合がある

	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年
総人口	3,579,628	3,688,773	3,725,138	3,735,021	3,717,810
0～39 歳人口	1,747,026	1,671,176	1,541,951	1,466,594	1,417,974
40～64 歳人口	1,222,942	1,276,578	1,306,352	1,327,255	1,328,282
65 歳以上人口	609,660	741,019	876,835	941,172	971,554
高齢化率%	17.0%	20.1%	23.5%	25.2%	26.1%
高齢化指数	351.5%	427.6	506.0	543.1	560.6
うち 75 歳以上人口	246,103	327,474	410,308	496,681	585,956
後期高齢者指数	452.0	602.1	754.4	913.2	1,077.4

< 第6期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画より >  
 ※国政調査結果、横浜市将来人口推計より算出



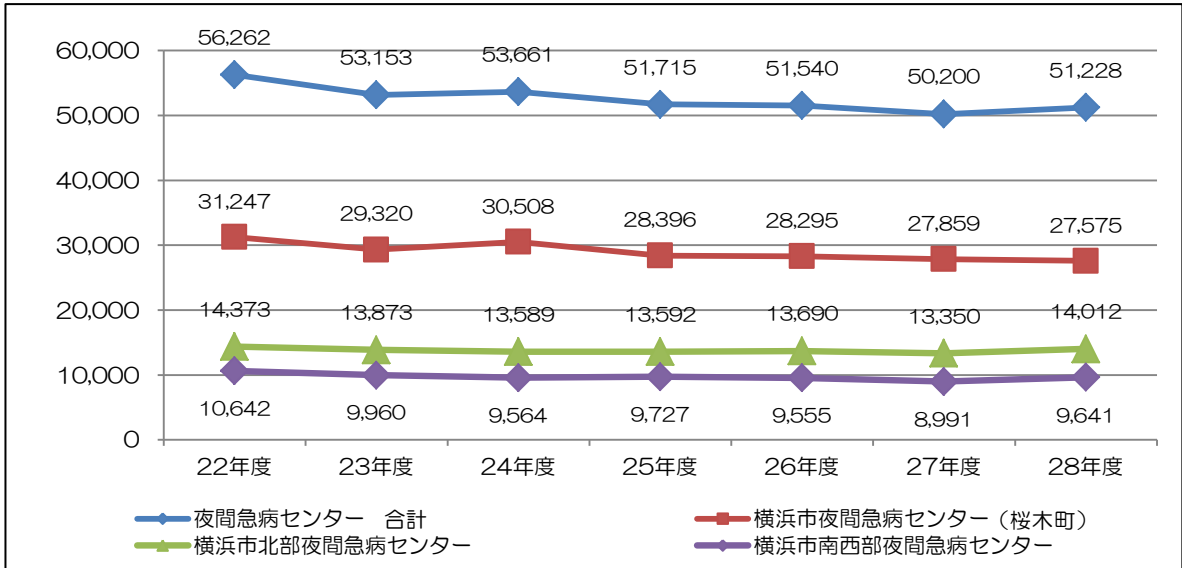
# ■ 初期救急医療体制

## 1 夜間急病センターの利用状況

### (1) 受入患者数の推移

受入患者数は、平成 28 年度は約 5 万 1 千人であり、経年的にほぼ横ばいの状況で推移しています。

《桜木町・北部・南西部 合計》



医療機関／年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
夜間急病センター	56,262	53,153	53,661	51,715	51,540	50,200	51,228
	-	△ 5.5%	1.0%	△ 3.6%	△ 0.3%	△ 2.6%	2.0%
横浜市夜間急病センター	31,247	29,320	30,508	28,396	28,295	27,859	27,575
	-	△ 6.2%	4.1%	△ 6.9%	△ 0.4%	△ 1.5%	△ 1.0%
横浜市北部夜間急病センター	14,373	13,873	13,589	13,592	13,690	13,350	14,012
	-	△ 3.5%	△ 2.0%	0.0%	0.7%	△ 2.5%	5.0%
横浜市南西部夜間急病センター	10,642	9,960	9,564	9,727	9,555	8,991	9,641
	-	△ 6.4%	△ 4.0%	1.7%	△ 1.8%	△ 5.9%	7.2%

上段：患者数(人) 下段：対前年度比

＜夜間急病センター運営事業実施状況報告書に基づき、医療局が作成＞

### (2) 年齢別の受入患者数

年齢別患者数は、0～14 歳の利用が全体の約半数を占めています。また、高齢者（65 歳以上）の利用は、平成 28 年度は 5.5%であり、経年的にほぼ同程度の低位で推移しています。

《桜木町・北部・南西部 合計》

	22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
0～4歳	19,195	34.1%	18,532	34.9%	17,266	32.2%	16,055	31.0%	14,962	29.0%	14,740	29.4%	15,269	29.8%
5～9歳	8,830	15.7%	7,726	14.5%	7,033	13.1%	7,372	14.3%	7,109	13.8%	7,395	14.7%	7,413	14.5%
10～14歳	3,703	6.6%	3,558	6.7%	3,555	6.6%	3,448	6.7%	3,567	6.9%	3,295	6.6%	3,489	6.8%
15～64歳	22,331	39.7%	21,122	39.7%	23,259	43.3%	22,171	42.9%	23,188	45.0%	22,030	43.9%	22,256	43.4%
65歳～	2,203	3.9%	2,215	4.2%	2,548	4.7%	2,669	5.2%	2,714	5.3%	2,740	5.5%	2,801	5.5%
合計	56,262	100%	53,153	100%	53,661	100%	51,715	100%	51,540	100%	50,200	100%	51,228	100%

＜夜間急病センター運営事業実施状況報告書に基づき、医療局が作成＞



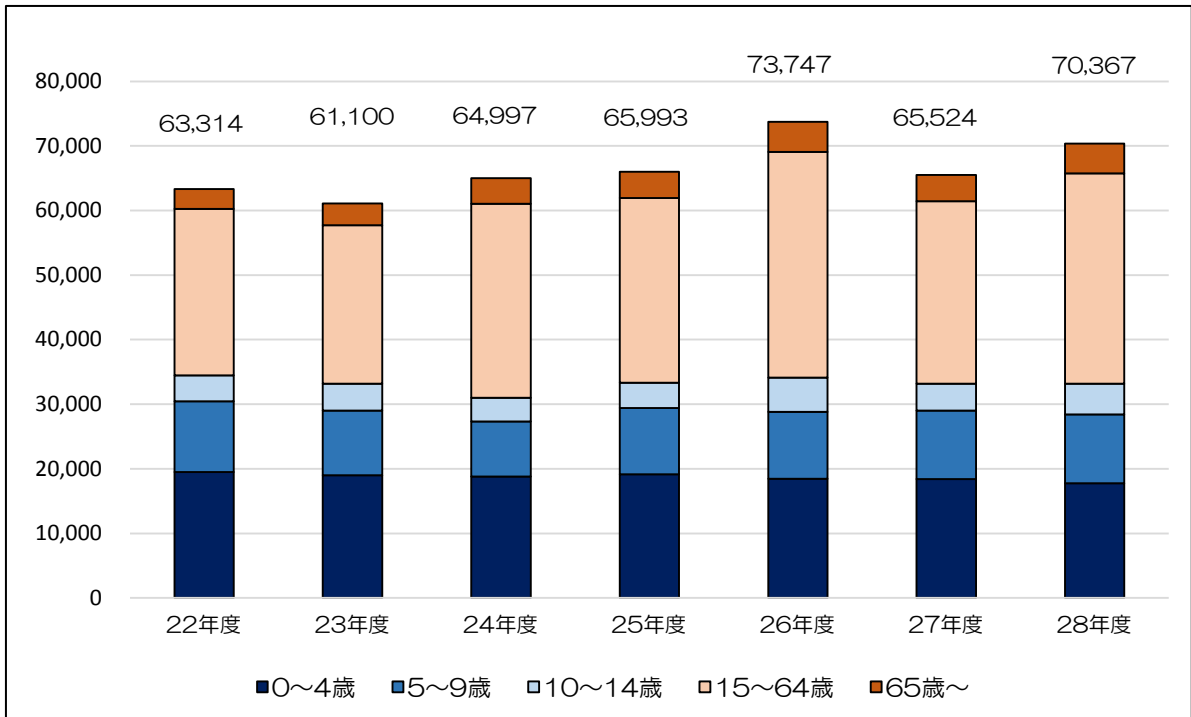


## 2 休日急患診療所の利用状況

### (1) 受入患者数の推移

受入患者数は、平成 28 年度は約 7 万人であり、経年的にほぼ横ばいの状況で推移しています。

《 18 区合計 》



＜休日急患診療所運営事業実施状況報告書に基づき、医療局が作成＞

### (2) 年齢別の受入患者数

年齢別患者数は、0～14 歳の利用が全体の約半数を占めています。また、高齢者（65 歳以上）の利用は、平成 28 年度は 6.6%であり、経年的にほぼ同程度の低位で推移しています。

《 18 区合計 》

	22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
0～4歳	19,517	30.8%	18,994	31.1%	18,823	29.0%	19,164	29.0%	18,446	25.0%	18,393	28.1%	17,768	25.3%
5～9歳	10,922	17.3%	10,034	16.4%	8,496	13.1%	10,227	15.5%	10,356	14.0%	10,618	16.2%	10,642	15.1%
10～14歳	4,013	6.3%	4,136	6.8%	3,679	5.7%	3,927	6.0%	5,333	7.2%	4,187	6.4%	4,786	6.8%
15～64歳	25,801	40.8%	24,580	40.2%	30,037	46.2%	28,618	43.4%	34,958	47.4%	28,263	43.1%	32,541	46.2%
65歳～	3,061	4.8%	3,356	5.5%	3,962	6.1%	4,057	6.1%	4,654	6.3%	4,063	6.2%	4,630	6.6%
合計	63,314	100%	61,100	100%	64,997	100%	65,993	100%	73,747	100%	65,524	100%	70,367	100%

＜休日急患診療所運営事業実施状況報告書に基づき、医療局が作成＞

《18 区別の推移》

単位：人														
	22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
診療日数	70日		70日		71日		71日		71日		71日		70日	
受診患者数	合計	一日平均	合計	一日平均	合計	一日平均	合計	一日平均	合計	一日平均	合計	一日平均	合計	一日平均
鶴見	3,613	51.6	3,516	50.2	4,017	56.6	4,827	68.0	5,218	73.5	5,030	70.8	5,426	77.5
神奈川	4,164	59.5	3,828	54.7	4,093	57.6	4,151	58.5	4,448	62.6	4,223	59.5	4,519	64.6
西	2,329	33.3	2,273	32.5	2,470	34.8	2,353	33.1	2,698	38.0	2,162	30.5	2,433	34.8
中	2,427	34.7	2,616	37.4	2,811	39.6	3,057	43.1	3,068	43.2	2,677	37.7	2,730	39.0
南	3,264	46.6	3,090	44.1	3,534	49.8	3,575	50.4	3,849	54.2	3,493	49.2	3,619	51.7
港南	4,235	60.5	3,776	53.9	4,728	66.6	4,724	66.5	5,236	73.7	4,413	62.2	4,541	64.9
保土ヶ谷	3,045	43.5	3,071	43.9	3,242	45.7	3,048	42.9	3,492	49.2	2,975	41.9	3,179	45.4
旭	3,536	50.5	3,597	51.4	3,677	51.8	3,374	47.5	4,494	63.3	3,727	52.5	3,999	57.1
磯子	2,550	36.4	2,562	36.6	2,735	38.5	2,739	38.6	2,922	41.2	2,753	38.8	2,724	38.9
金沢	4,429	63.3	4,262	60.9	4,241	59.7	4,151	58.5	4,717	66.4	4,306	60.6	4,177	59.7
港北	3,626	51.8	3,650	52.1	3,827	53.9	3,693	52.0	3,991	56.2	3,605	50.8	3,980	56.9
緑	3,908	55.8	3,433	49.0	3,704	52.2	3,943	55.5	4,603	64.8	4,133	58.2	4,409	63.0
青葉	4,695	67.1	4,431	63.3	4,714	66.4	4,628	65.2	5,218	73.5	5,508	77.6	5,743	82.0
都筑	5,473	78.2	5,307	75.8	5,526	77.8	5,544	78.1	6,241	87.9	5,180	73.0	5,456	77.9
戸塚	3,171	45.3	2,999	42.8	2,880	40.6	2,904	40.9	3,012	42.4	2,453	34.5	4,335	61.9
栄	2,845	40.6	2,825	40.4	2,859	40.3	3,199	45.1	3,437	48.4	2,962	41.7	2,910	41.6
泉	3,572	51.0	3,403	48.6	3,599	50.7	3,733	52.6	4,322	60.9	3,594	50.6	3,755	53.6
瀬谷	2,432	34.7	2,461	35.2	2,422	34.1	2,350	33.1	2,781	39.2	2,330	32.8	2,432	34.7
計	63,314		61,100		65,079		65,993		73,747		65,524		70,367	
1か所あたり		50.2		48.5		50.9		51.6		57.7		51.3		55.1

単位：人														
歯科受診者数（再掲）														
金沢区	350	5.0	302	4.3	248	3.5	237	3.3	184	2.6	185	2.6	187	2.7
戸塚区	328	4.7	326	4.7										

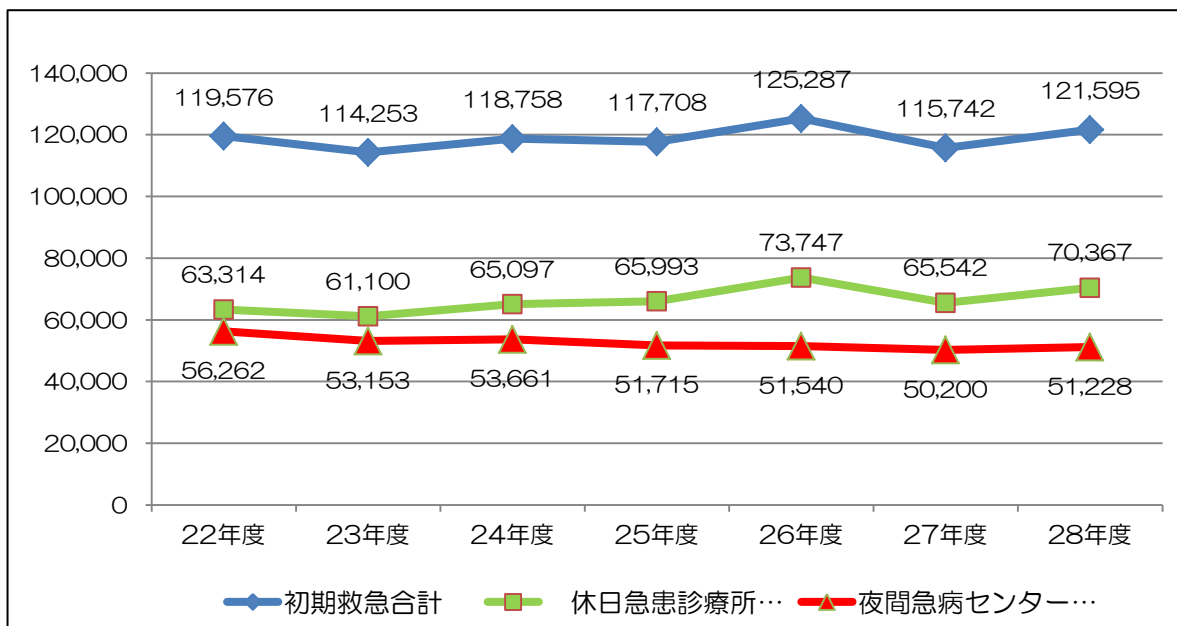
＜休日急患診療所運営事業実施状況報告書に基づき、医療局が作成＞

### 3 夜間急病センターと休日急患診療所の合計値

#### (1) 受入患者数の推移

夜間急病センターと休日急患診療所を合計した受入患者数は、平成 28 年度は約 12 万 2 千人であり、経年的にほぼ横ばいの状況で推移しています。

《桜木町・北部・南西部、休日急患診療所 合計》



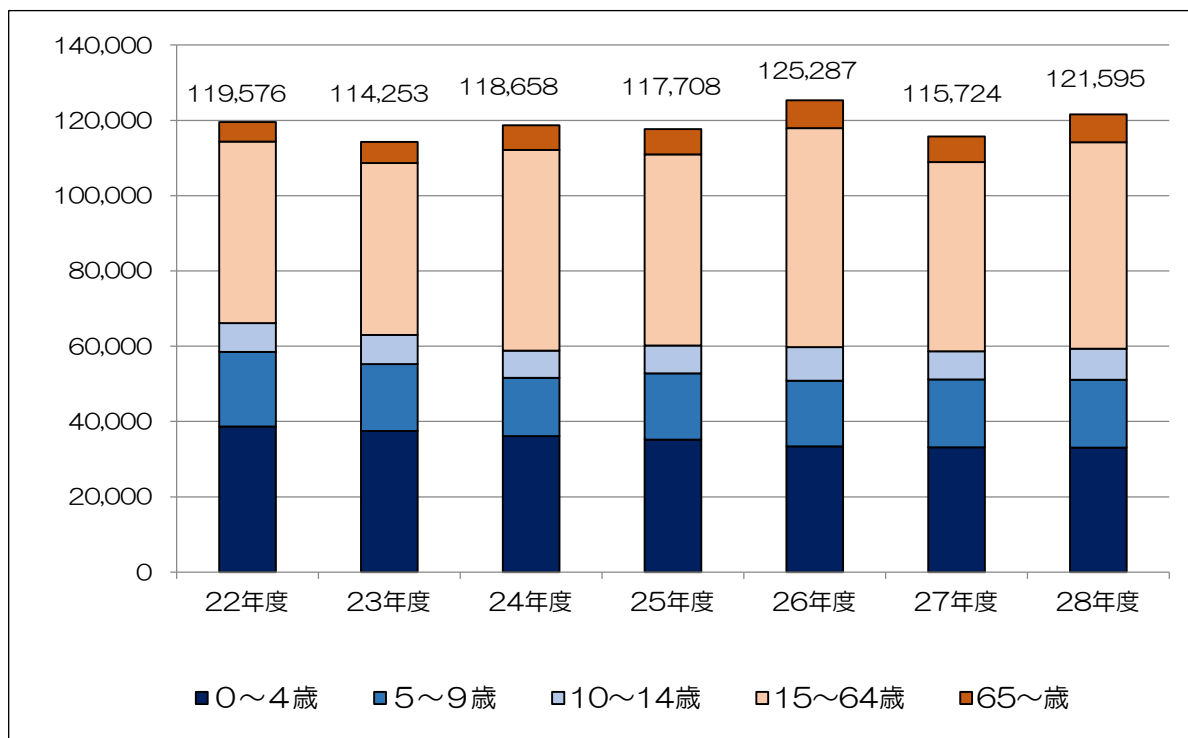
医療機関／年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
初期救急合計	119,576	114,253	118,758	117,708	125,287	115,742	121,595
	-	△ 4.5%	3.9%	△ 0.9%	6.4%	△ 7.6%	5.1%
休日急患診療所 (18区合計)	63,314	61,100	65,097	65,993	73,747	65,542	70,367
	-	△ 3.5%	6.5%	1.4%	11.7%	△ 11.1%	7.4%
夜間急病センター (3か所合計)	56,262	53,153	53,661	51,715	51,540	50,200	51,228
	-	△ 5.5%	1.0%	△ 3.6%	△ 0.3%	△ 2.6%	2.0%
横浜市夜間急病センター	31,247	29,320	30,508	28,396	28,295	27,859	27,575
	-	△ 6.2%	4.1%	△ 6.9%	△ 0.4%	△ 1.5%	△ 1.0%
横浜市北部夜間急病センター	14,373	13,873	13,589	13,592	13,690	13,350	14,012
	-	△ 3.5%	△ 2.0%	0.0%	0.7%	△ 2.5%	5.0%
横浜市南西部夜間急病センター	10,642	9,960	9,564	9,727	9,555	8,991	9,641
	-	△ 6.4%	△ 4.0%	1.7%	△ 1.8%	△ 5.9%	7.2%

<夜間急病センター・休日急患診療所運営事業実施状況報告書に基づき、医療局が作成>

## (2) 年齢別の受入患者数

年齢別患者数は、0～14歳の利用が全体の約半数を占めています。また、高齢者（65歳以上）の利用は、平成28年度は6.1%であり、経年的にほぼ同程度の低位で推移しています。

《桜木町・北部・南西部、休日急患診療所 合計》



	22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
0～4歳	38,712	32.4%	37,526	32.8%	36,089	30.4%	35,219	29.9%	33,408	26.7%	33,133	28.6%	33,037	27.2%
5～9歳	19,752	16.5%	17,760	15.5%	15,529	13.1%	17,599	15.0%	17,465	13.9%	18,013	15.6%	18,055	14.8%
10～14歳	7,716	6.5%	7,694	6.7%	7,234	6.1%	7,375	6.3%	8,900	7.1%	7,482	6.5%	8,275	6.8%
15～64歳	48,132	40.3%	45,702	40.0%	53,296	44.9%	50,789	43.1%	58,146	46.4%	50,293	43.5%	54,797	45.1%
65～歳	5,264	4.4%	5,571	4.9%	6,510	5.5%	6,726	5.7%	7,368	5.9%	6,803	5.9%	7,431	6.1%
合計	119,576	100%	114,253	100%	118,658	100%	117,708	100%	125,287	100%	115,724	100%	121,595	100.0%

<夜間急病センター・休日急患診療所運営事業実施状況報告書に基づき、医療局が作成>

#### 4 救急相談センター（#7119）の利用状況

##### (1) 利用実績

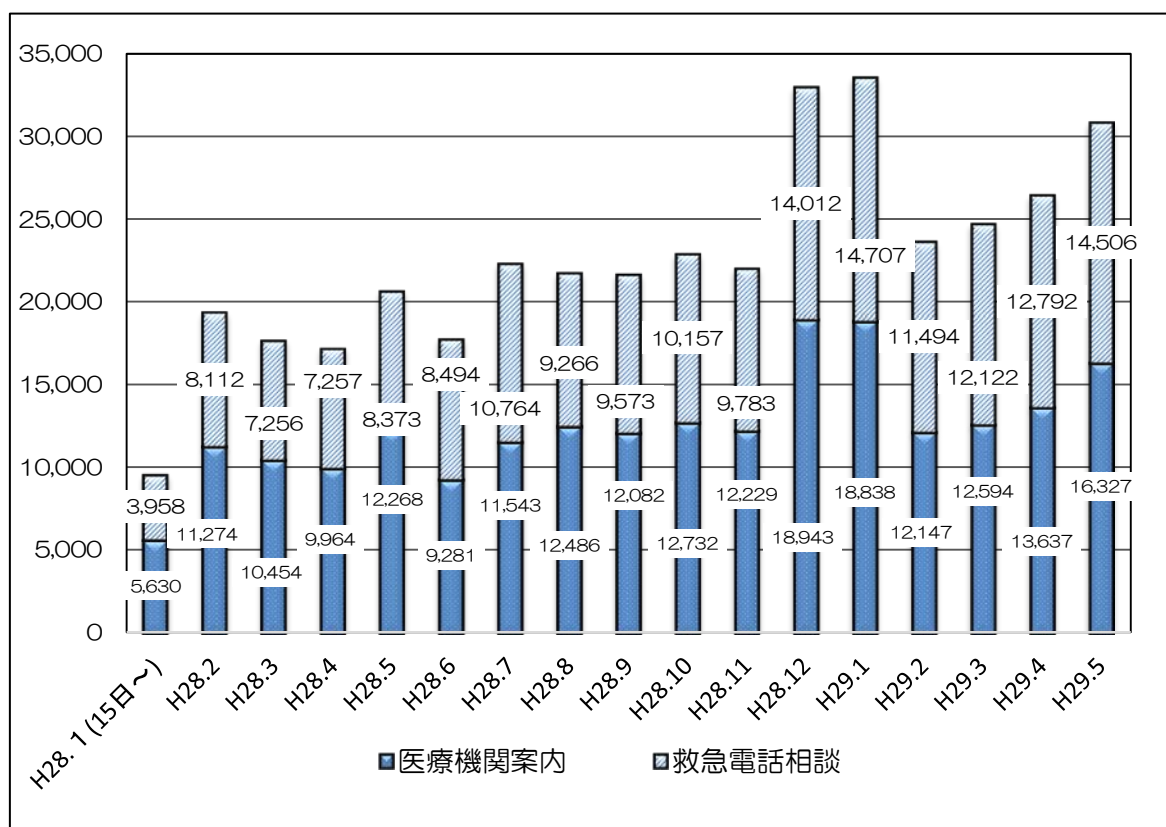
事業を開始した平成28年1月から平成29年5月までの利用実績は38万5千件であり、内訳では、医療機関案内が21万2千件、救急電話相談が17万2千件となっています。

《平成28年1月15日～平成29年5月31日》

総件数		385,055件
(内訳)	医療機関案内	212,429件
	救急電話相談	172,626件

##### (2) 医療機関案内・救急電話相談別の利用推移

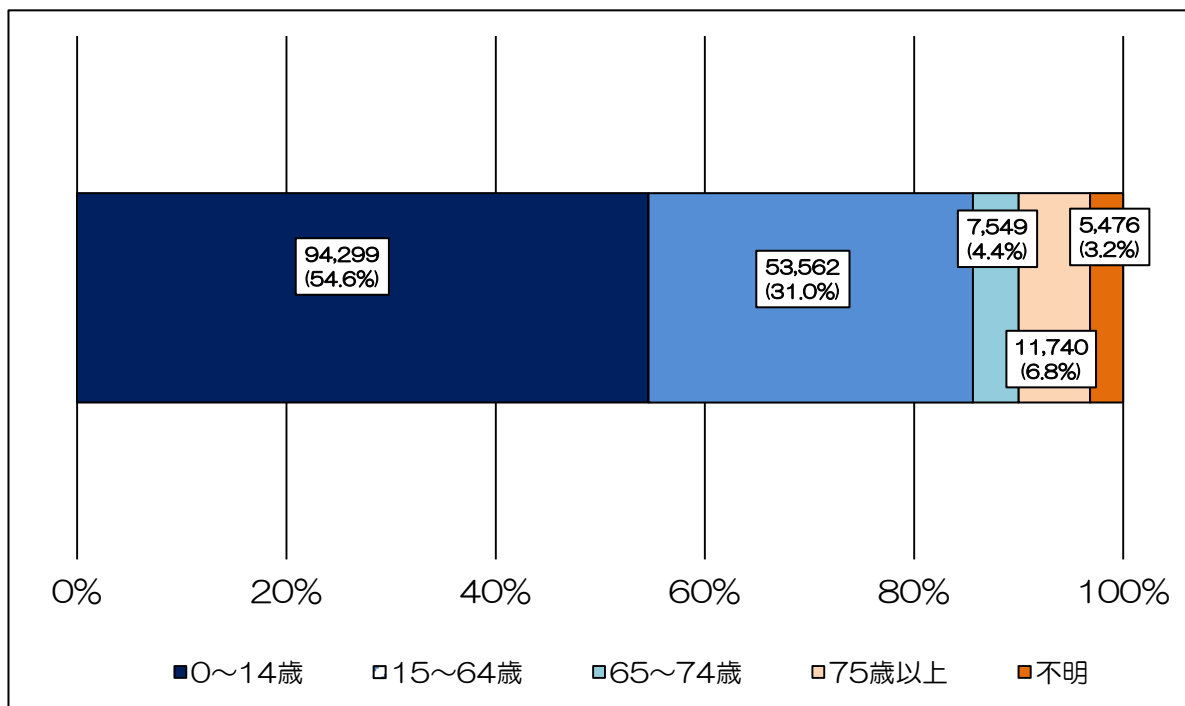
医療機関案内・救急電話相談別の月別の利用推移は、ともに増加の傾向にあります。



### (3) 救急電話相談の利用実績

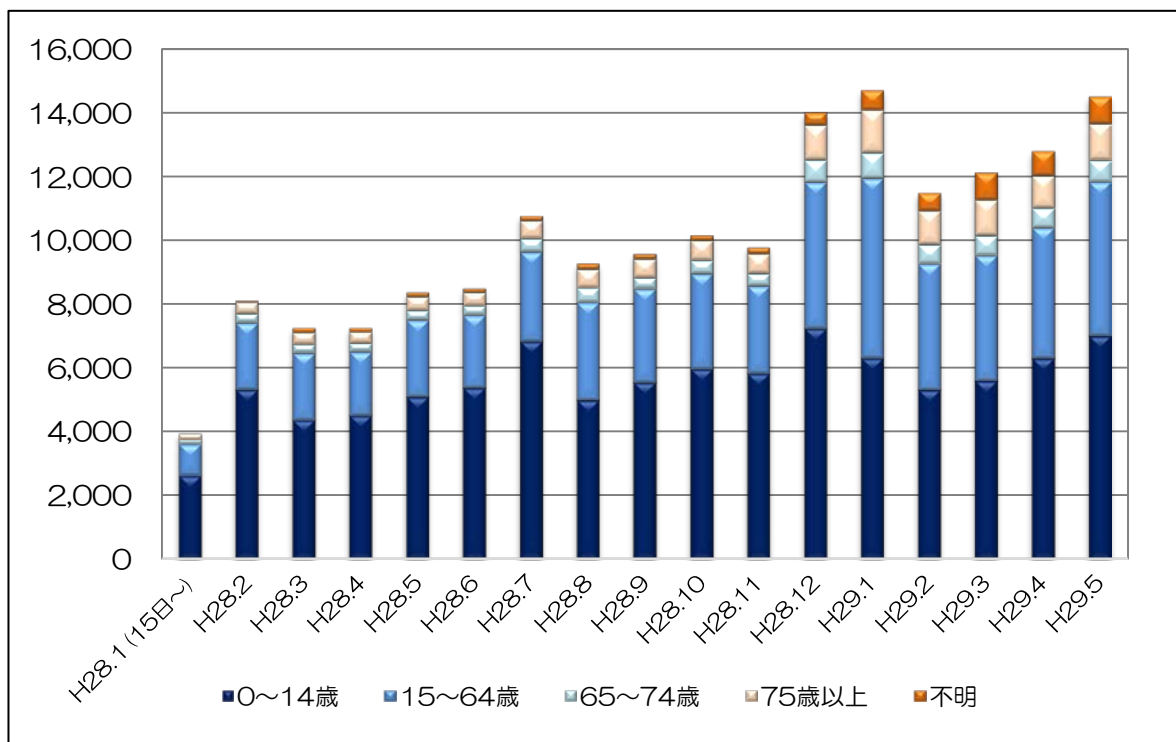
救急電話相談の年齢別の利用実績は、0歳から14歳までの小児の利用が半数以上を占めており、高齢者（65歳以上）は約11%と低い利用となっています。

《平成28年1月15日～平成29年5月31日の年齢別実績》



＜横浜市救急相談業務運営協議会救急相談業務運営部会資料に基づき、医療局が作成＞

《月別の推移》



＜横浜市救急相談業務運営協議会救急相談業務運営部会資料に基づき、医療局が作成＞

## ■ 二次・三次救急医療体制

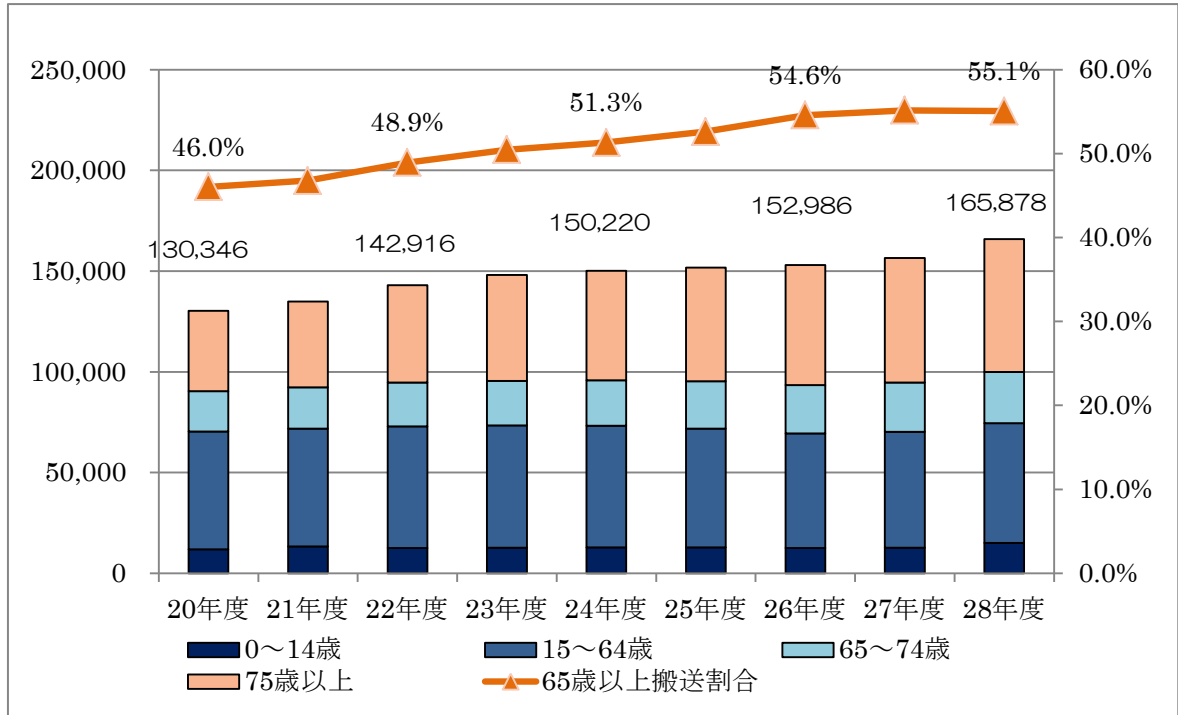
### 1 救急搬送の現状と将来予測

#### (1) 救急搬送のこれまでの推移

平成 20 年度から平成 28 年度までの間で、横浜市の救急搬送件数は約 35,000 人増加しています。

年代別では、高齢者（65 歳以上）は約 31,000 人増加しており、全体に占める割合も 50%以上に上昇しています。

《救急搬送件数の推移（年代別）》



	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)
0～14歳	11,956	13,268	12,614	12,712	12,909	12,777	12,562	12,695	15,073	3,117
15～64歳	58,383	58,497	60,359	60,633	60,253	59,072	56,932	57,485	59,474	1,091
65～74歳	20,043	20,559	21,749	22,172	22,687	23,477	24,000	24,586	25,446	5,403
75歳以上	39,964	42,523	48,194	52,545	54,371	56,326	59,492	61,729	65,885	25,921
合計	130,346	134,847	142,916	148,062	150,220	151,652	152,986	156,495	165,878	35,532

<消防局統計データに基づき、医療局が作成>

## (2) 救急搬送の現状

平成 28 年度の横浜市の救急搬送件数は約 16 万 5 千人となっています。

傷病程度別の区分では、高齢者（65 歳以上）は、「軽症・中等症」の搬送件数・割合が多くなっています。また、他の年代と比較して「中等症」・「重症以上」の搬送割合が高くなっています。

《傷病程度別の救急搬送件数（年代別）》

年齢区分	救急搬送件数	軽症		中等症		重症	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
0～6歳	11,095	8,740	78.8%	2,165	19.5%	190	1.7%
7～14歳	3,945	3,121	79.1%	764	19.4%	60	1.5%
15～64歳	59,469	37,491	63.0%	18,022	30.3%	3,955	6.7%
65歳以上	91,327	35,497	38.9%	43,410	47.5%	12,420	13.6%
65～74歳	25,446	11,655	45.8%	10,602	41.7%	3,189	12.5%
75歳以上	65,881	23,842	36.2%	32,808	49.8%	9,231	14.0%
	165,836	84,849	51.2%	64,361	38.8%	16,625	10.0%

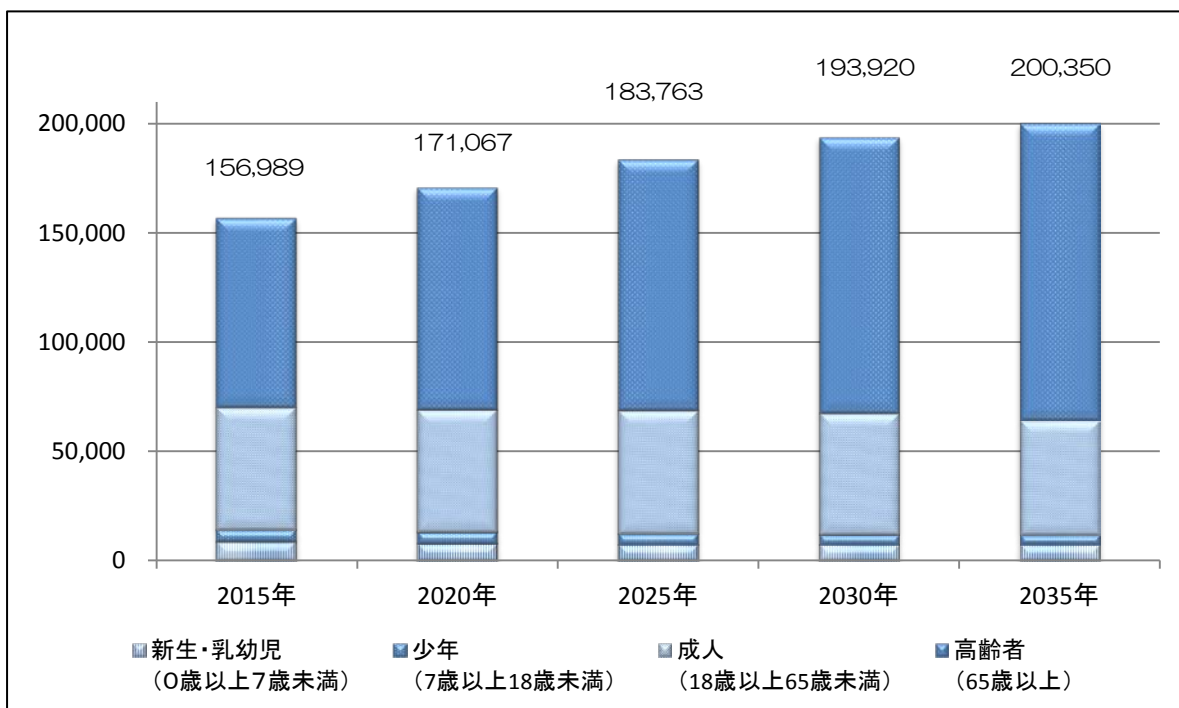
＜消防局統計データに基づき、医療局が作成＞

## (3) 救急搬送の将来予測

2015 年（平成 27 年）と比較し、団塊の世代が 75 歳以上になる 10 年後の 2025 年（平成 37 年）には、横浜市の救急搬送件数は約 2 万 3 千件増加し、約 18 万 3 千件になると予測されます。（市内で、約 60 件増/1 日）

さらに、2035 年（平成 47 年）には、約 4 万 3 千件増加し、約 20 万人になると予測されます。（市内で、約 115 件増/1 日）

《救急搬送の将来予測（年代別割合）》



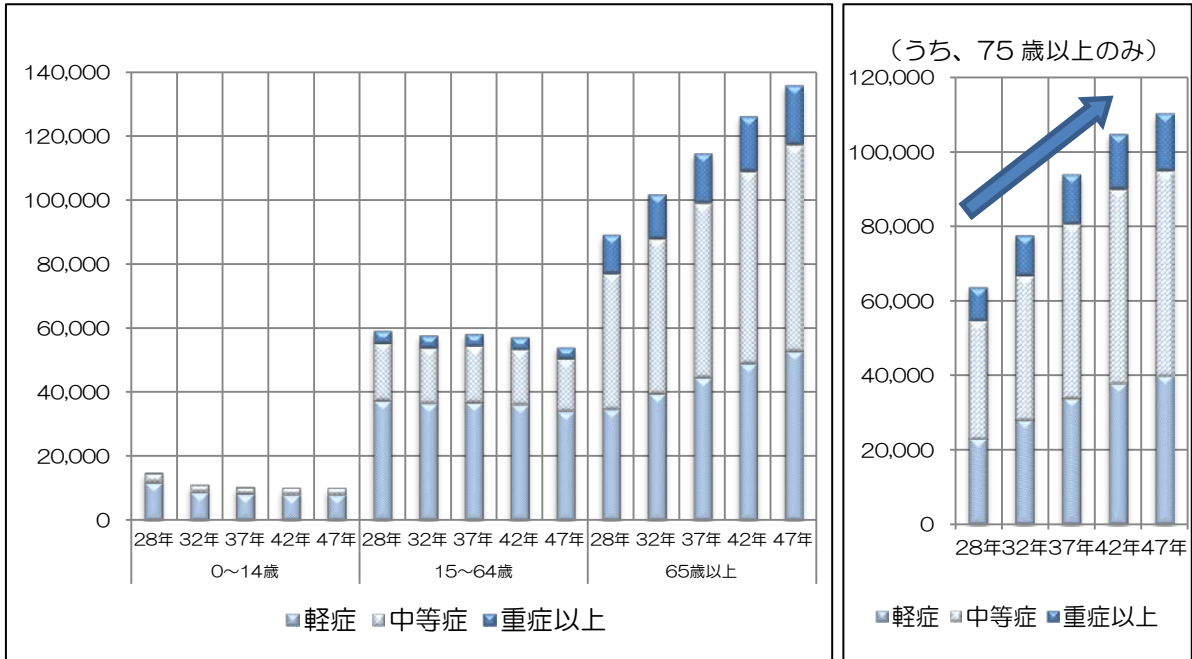
＜H26 年救急業務検討委員会資料データから抜粋＞



さらに、将来予測の年代別では、0～14歳と15歳～64歳は減少傾向にあると予測されます。また、高齢者の詳細を見ると、65歳～74歳の搬送件数は減少傾向にあるのに対し、75歳以上の搬送件数は大きく増加し、「中等症」・「軽症」・「重症以上」の順で搬送件数が多いと予測されます。

※ 平成26年度時の救急搬送将来予測に基づき、医療局が作成

《救急搬送の将来予測（年代別件数・傷病程度別）》



		28年 (2016)	32年 (2020)	37年 (2025)	42年 (2030)	47年 (2035)	28年対37年 増減	28年対47年 増減
0～14歳	軽症	11,929	8,917	8,382	8,162	8,102	▲ 3547	▲ 3827
	中等症	2,945	2,201	2,069	2,015	2,000	▲ 876	▲ 945
	重症以上	251	188	177	172	171	▲ 74	▲ 80
15～64歳	軽症	37,452	36,507	36,823	36,154	34,186	▲ 629	▲ 3266
	中等症	18,012	17,558	17,710	17,388	16,442	▲ 302	▲ 1570
	重症以上	3,983	3,883	3,916	3,845	3,636	▲ 67	▲ 347
65～74歳	軽症	11,607	10,992	9,499	9,842	11,676	▲ 2108	69
	中等症	10,568	10,009	8,649	8,961	10,631	▲ 1919	63
	重症以上	3,168	3,000	2,593	2,686	3,187	▲ 575	19
小計		99,915	93,255	89,818	89,225	90,031	▲ 10097	▲ 9884

		28年 (2016)	32年 (2020)	37年 (2025)	42年 (2030)	47年 (2035)	28年対37年 増減	28年対47年 増減
75歳以上	軽症	23,127	28,168	34,008	37,899	39,936	10,881	16,809
	中等症	31,815	38,750	46,785	52,137	54,939	14,970	23,124
	重症以上	8,944	10,894	13,152	14,657	15,445	4,208	6,501
小計		63,886	77,812	93,945	104,693	110,320	30,059	46,434

		28年 (2016)	32年 (2020)	37年 (2025)	42年 (2030)	47年 (2035)	28年対37年 増減	28年対47年 増減
軽症		84,115	84,584	88,712	92,057	93,900	4,597	9,785
中等症		63,340	68,518	75,213	80,501	84,012	11,873	20,672
重症以上		16,346	17,965	19,838	21,362	22,438	3,492	6,092
合計		163,801	171,067	183,763	193,920	200,350	19,962	36,549

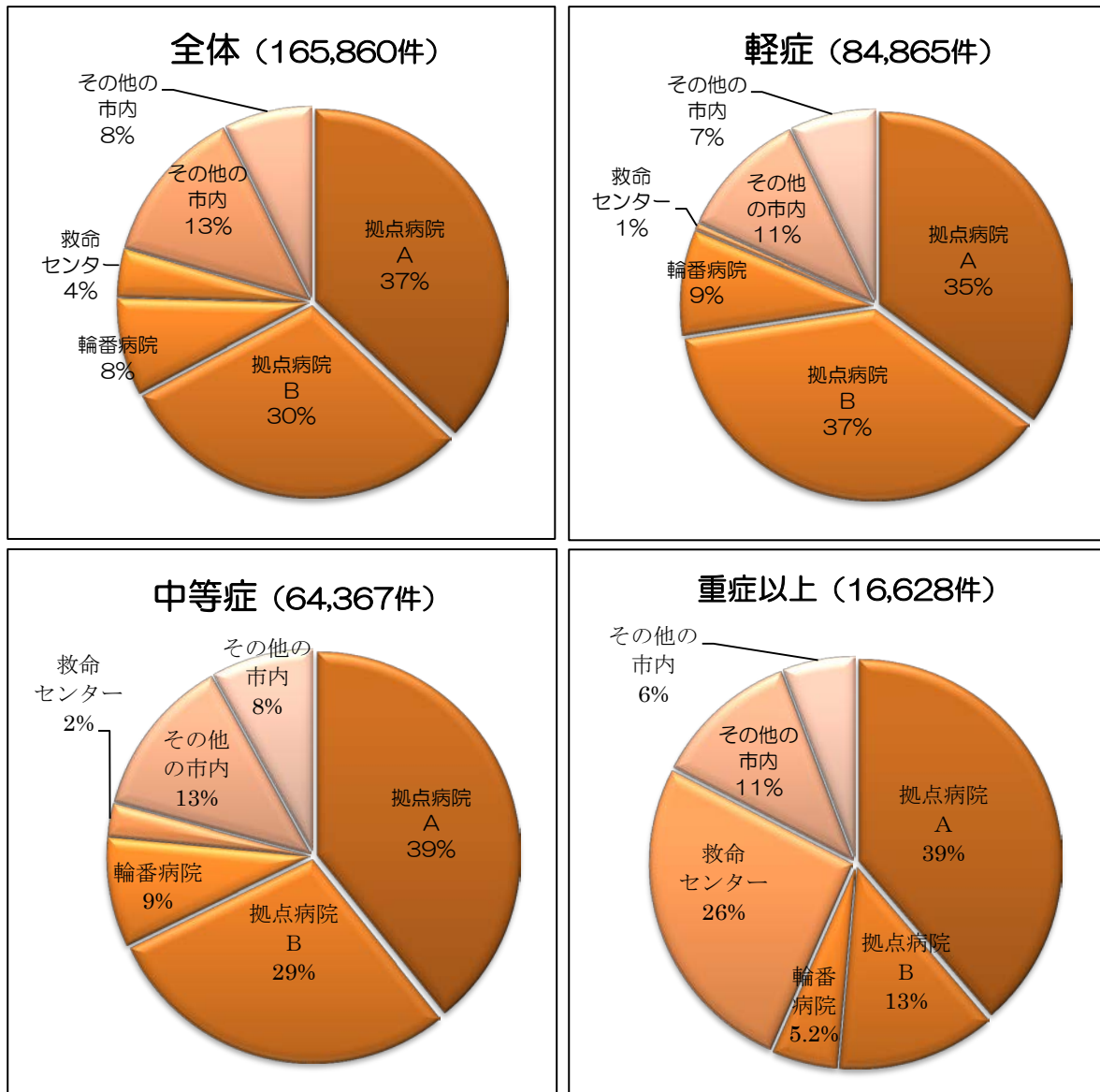


## 2 医療機関の救急搬送受入状況

### (1) 医療機関別の受入件数の割合（28年度）

全体の受入件数に対して、二次救急拠点病院Aが37%、二次救急拠点病院Bが30%を受け入れており、3分の2を占めています。

二次救急拠点病院Aは「軽症」・「中等症」・「重症以上」のともに多くの割合を受け入れています。二次救急拠点病院Bは、「軽症」・「中等症」の受入割合が多くなっています。救命救急センターは、「重症以上」の受入割合が多くなっています。

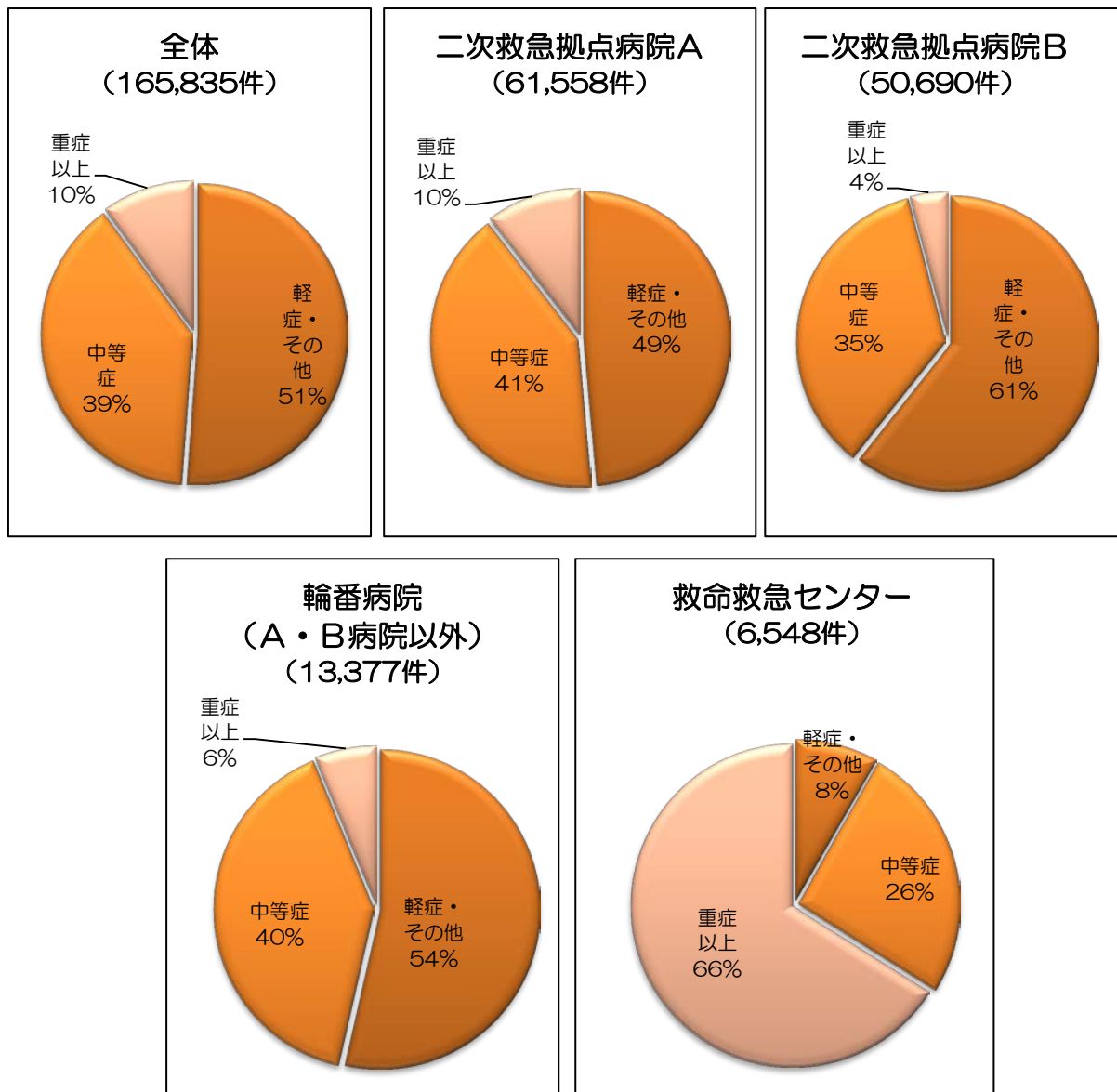


	二次救急拠点病院A	二次救急拠点病院B	輪番病院 (A・B病院以外)	救命救急センター	市内の その他の病院及び診療所	市外の病院及び診療所	合計
軽症・その他	29,906	31,604	7,495	539	9,232	6,089	84,865
中等症	25,229	18,395	5,630	1,684	8,205	5,224	64,367
重症以上	6,433	2,112	868	4,327	1,924	964	16,628
合計	61,568	52,111	13,993	6,550	19,361	12,277	165,860

<消防局統計データに基づき、医療局が作成>

(2) 各医療機関の傷病程度別の受入割合（28年度）

二次救急拠点病院Aは、他体制に比べ「中等症」・「重症以上」の受入割合が多くなっています。二次救急拠点病院B及び輪番病院は、他体制に比べ「軽症」の受入割合が多くなっています。救命救急センターは、他体制に比べ「重症以上」の受入割合が多くなっています。



	0~14歳	15~64歳	65~74歳	75歳以上	合計
救急拠点病院 A	10,132	19,616	9,248	22,562	61,558
救急拠点病院 B	1,735	20,801	7,489	20,665	50,690
輪番病院 (A・B病院以外)	358	4,810	1,951	6,258	13,377
救命救急センター	294	2,143	1,207	2,904	6,548
市内のその他の病院及び診療所	1,994	7,236	3,504	8,651	21,385
市外の病院及び診療所	527	4,862	2,047	4,841	12,277
全 体	15,040	59,468	25,446	65,881	165,835

<消防局統計データに基づき、医療局が作成>

### (3) 医療機関別の平均受入件数の推移（28年度）

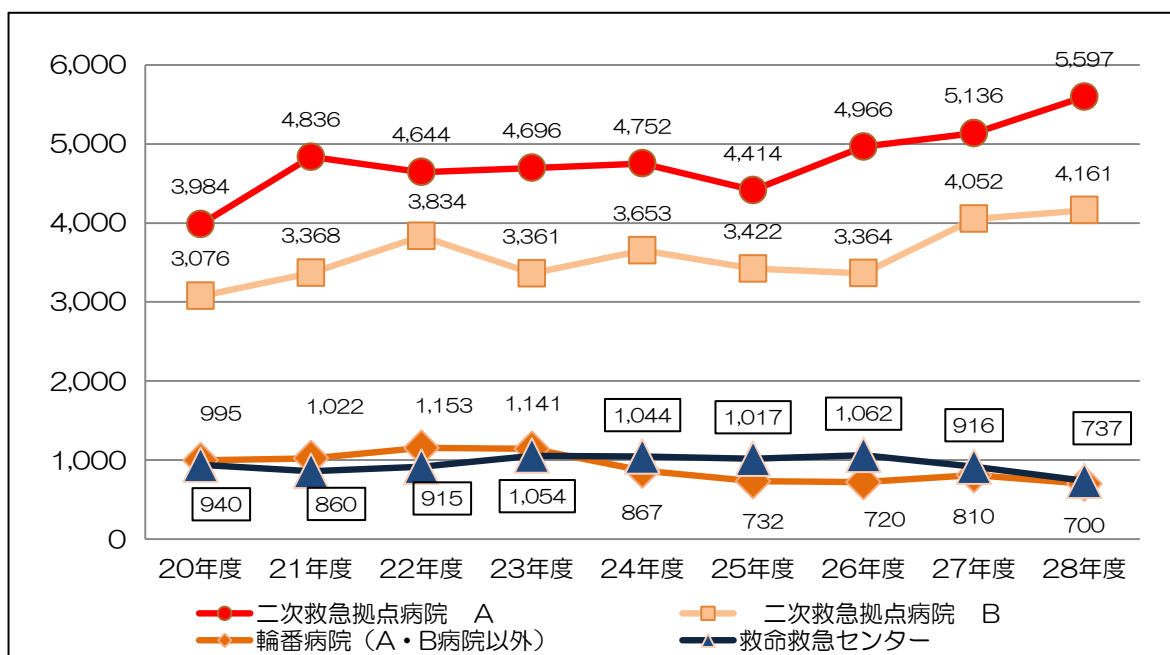
医療機関別の1病院あたりの平均受入件数は、二次救急拠点病院Aは全体的に受入件数が多く、特に「中等症」・「重症以上」が増加の傾向で推移しています。

二次救急拠点病院Bも全体的に受入件数多く、特に「軽症」・「中等症」が増加の傾向で推移しています。

輪番病院については、全体的に受入件数が少なく、減少傾向で推移しています。

救命救急センターについても、9か所まで増設されたことも受け、1病院あたりの受付件数が減少しています。

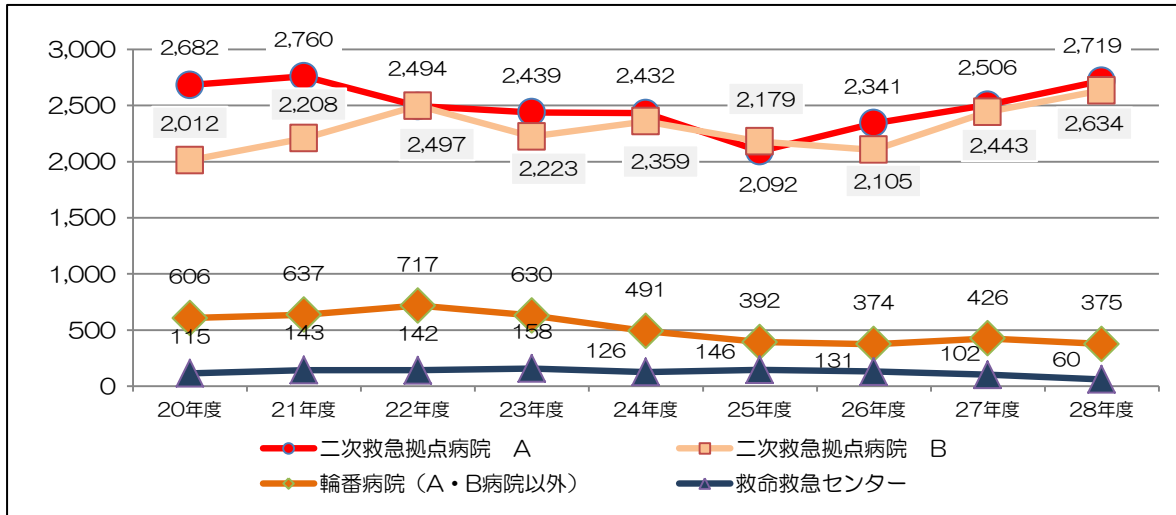
#### 《 全 体 》



	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
二次救急拠点病院 A	51,788	53,193	51,083	46,961	47,516	48,558	54,630	56,493	61,568
A病院平均	3,984	4,836	4,644	4,696	4,752	4,414	4,966	5,136	5,597
二次救急拠点病院 B	21,533	23,573	26,840	36,976	40,186	44,483	47,091	44,572	49,931
B病院平均	3,076	3,368	3,834	3,361	3,653	3,422	3,364	4,052	4,161
輪番病院 (A・B病院以外)	23,885	24,538	27,682	20,536	15,612	12,445	12,238	15,381	13,993
輪番病院平均	995	1,022	1,153	1,141	867	732	720	810	700
救命救急センター	4,702	5,161	6,408	8,428	8,349	8,138	8,496	7,325	6,550
救命救急センター平均	940	860	915	1,054	1,044	1,017	1,062	916	737
市内のその他の病院及び診療所	18,741	18,237	20,612	23,486	26,119	25,909	19,191	20,811	21,541
市外の病院及び診療所	9,697	10,145	10,891	11,675	12,438	12,119	11,340	11,913	12,277
全 体	130,346	134,847	143,516	148,062	150,220	151,652	152,986	156,495	165,860

＜消防局統計データに基づき、医療局が作成＞

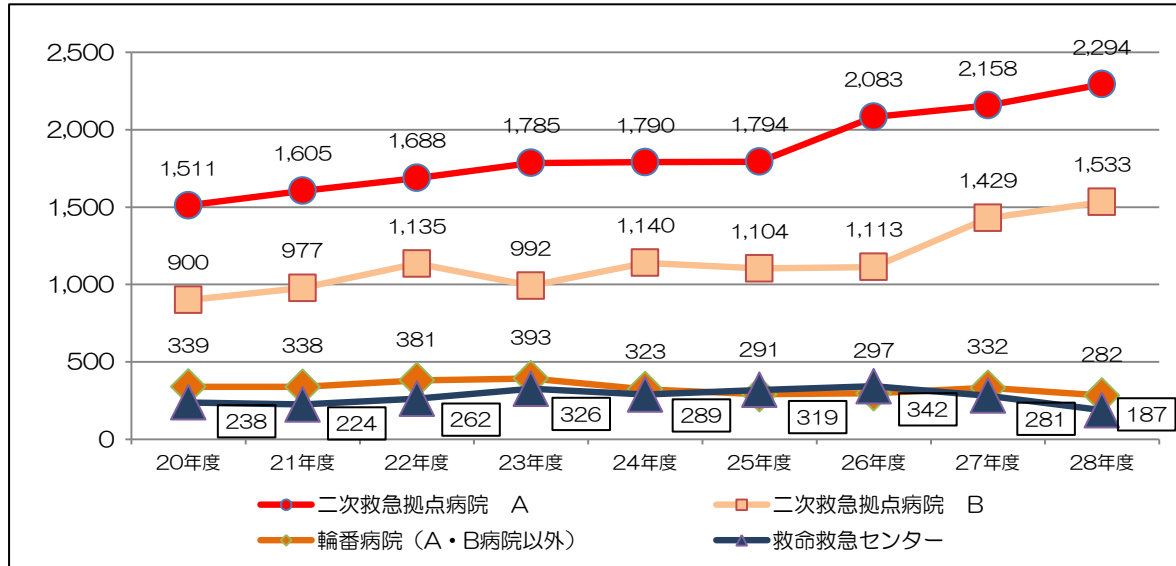
## 《 軽 症 》



	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
二次救急拠点病院 A	29,507	30,359	27,439	24,386	24,321	23,017	25,749	27,571	29,906
A病院平均	2,682	2,760	2,494	2,439	2,432	2,092	2,341	2,506	2,719
二次救急拠点病院 B	14,084	15,454	17,477	24,450	25,946	28,331	29,464	26,869	30,297
B病院平均	2,012	2,208	2,497	2,223	2,359	2,179	2,105	2,443	2,525
輪番病院 (A・B病院以外)	14,544	15,287	17,212	11,963	8,845	6,667	6,360	8,096	7,495
輪番病院平均	606	637	717	630	491	392	374	426	375
救命救急センター	577	858	996	1,264	1,007	1,164	1,050	819	539
救命救急センター平均	115	143	142	158	126	146	131	102	60
市内のその他の病院及び診療所	9,595	9,561	10,144	12,509	13,898	13,095	9,356	9,386	10,539
市外の病院及び診療所	4,307	4,438	4,959	5,505	5,988	5,832	5,520	5,887	6,089
全 体	72,614	75,957	78,227	80,077	80,005	78,106	77,499	78,628	84,865

＜消防局統計データに基づき、医療局が作成＞

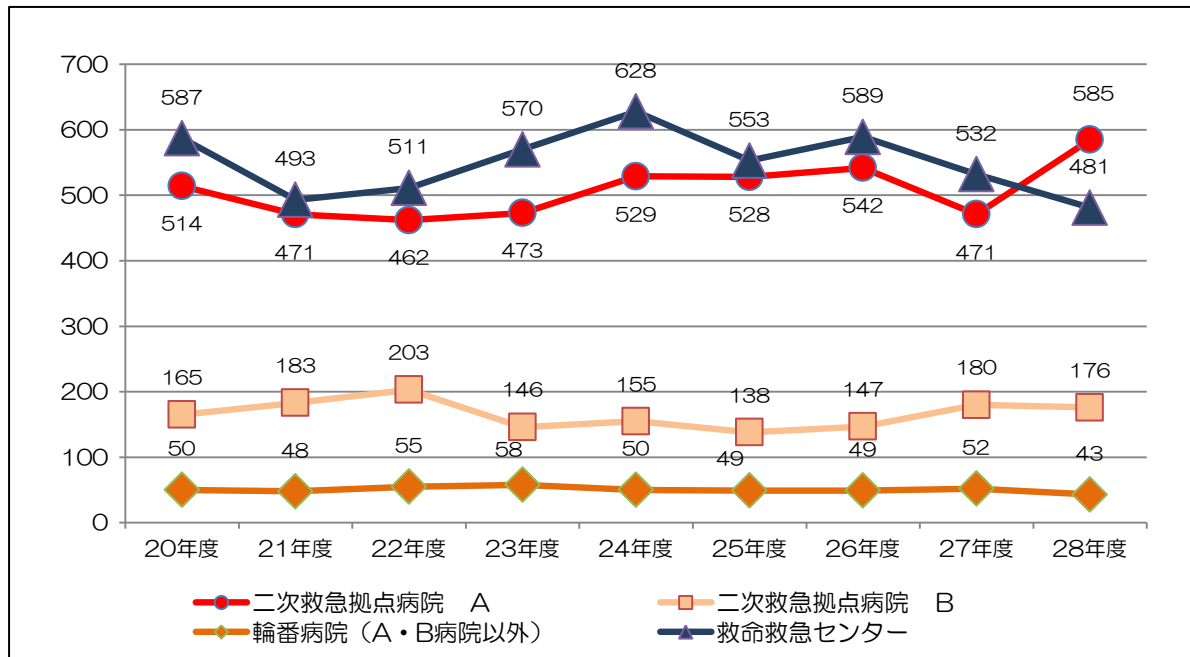
## 《 中 等 症 》



	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
二次救急拠点病院 A	16,626	17,651	18,563	17,846	17,904	19,733	22,916	23,738	25,229
A病院平均	1,511	1,605	1,688	1,785	1,790	1,794	2,083	2,158	2,294
二次救急拠点病院 B	6,297	6,836	7,942	10,916	12,537	14,357	15,576	15,722	17,642
B病院平均	900	977	1,135	992	1,140	1,104	1,113	1,429	1,470
輪番病院 (A・B病院以外)	8,134	8,100	9,154	7,469	5,815	4,950	5,047	6,305	5,630
輪番病院平均	339	338	381	393	323	291	297	332	282
救命救急センター	1,190	1,344	1,833	2,605	2,315	2,554	2,738	2,249	1,684
救命救急センター平均	238	224	262	326	289	319	342	281	187
市内のその他の病院及び診療所	7,247	6,889	7,885	8,876	9,930	10,089	8,073	8,791	8,958
市外の病院及び診療所	4,405	4,618	4,798	5,090	5,342	5,198	4,859	5,032	5,224
全 体	43,899	45,438	50,175	52,802	53,843	56,881	59,209	61,837	64,367

＜消防局統計データに基づき、医療局が作成＞

## 《重症以上》



	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
二次救急拠点病院 A	5,655	5,183	5,081	4,729	5,291	5,808	5,965	5,184	6,433
A病院平均	514	471	462	473	529	528	542	471	585
二次救急拠点病院 B	1,152	1,283	1,421	1,610	1,703	1,795	2,051	1,981	1,992
B病院平均	165	183	203	146	155	138	147	180	166
輪番病院 (A・B病院以外)	1,207	1,151	1,316	1,104	952	828	831	980	868
輪番病院平均	339	338	381	393	323	291	297	332	282
救命救急センター	2,935	2,959	3,579	4,559	5,027	4,420	4,708	4,257	4,327
救命救急センター平均	587	493	511	570	628	553	589	532	481
市内のその他の病院及び診療所	1,899	1,787	1,983	2,101	2,291	2,725	1,762	2,634	2,044
市外の病院及び診療所	985	1,089	1,134	1,080	1,108	1,089	961	994	964
全 体	13,833	13,452	14,514	15,183	16,372	16,665	16,278	16,030	16,628

＜消防局統計データに基づき、医療局が作成＞





【表1】救急車搬送件数の医療機関比較 【全時間帯傷病程度別】

①「増減（28年度対20年度比）」は、搬送件数の増減とその増減比を表す  
 ②重症度の判定は、各医療機関の医師による初見時の判定（救急隊収容書）による  
 ③この表の救急車搬送件数は、横浜市の救急隊が救急搬送した件数であり、他の自治体の救急車搬送件数は含まない

医療機関	全時間帯救急車搬送件数 【合計】										傷病程度別内訳																																	
											軽症・その他								中等症								重症以上																	
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)				
全体	130,346	134,847	143,516	148,062	150,220	151,652	152,996	156,495	165,860	35,514	27.2%	72,614	75,957	78,227	80,077	80,005	78,106	77,499	78,628	84,865	12,251	16.9%	43,899	45,438	50,175	52,802	53,843	56,881	59,209	61,837	64,367	20,468	46.6%	13,833	13,452	14,514	15,183	16,372	16,665	16,278	16,030	16,628	2,795	20.2%
二次救急拠点病院 合計	73,321	76,766	77,923	83,937	87,702	93,041	101,721	101,065	111,499	38,178	52.1%	43,591	45,813	44,916	48,836	50,267	51,348	55,213	54,440	60,203	16,612	38.1%	22,923	24,487	26,505	28,762	30,441	34,090	38,492	39,460	42,871	19,948	87.0%	6,807	6,466	6,502	6,339	6,994	7,603	8,016	7,165	8,425	1,618	23.8%
二次救急拠点病院 A	51,788	53,193	51,083	46,961	47,516	48,558	54,630	56,493	61,568	9,780	18.9%	29,507	30,359	27,439	24,386	24,321	23,017	25,749	27,571	29,906	399	1.4%	16,626	17,651	18,563	17,846	17,904	19,733	22,916	23,738	25,229	8,603	51.7%	5,655	5,183	5,081	4,729	5,291	5,808	5,965	5,184	6,433	778	13.8%
A病院平均	3,984	4,836	4,644	4,696	4,752	4,414	4,966	5,136	5,597	1,613	40.5%	2,682	2,760	2,494	2,439	2,432	2,092	2,341	2,506	2,719	36	1.4%	1,511	1,605	1,688	1,785	1,790	1,794	2,083	2,158	2,294	782	51.7%	514	471	462	473	529	528	542	471	585	71	13.8%
二次救急拠点病院 B	21,533	23,573	26,840	36,976	40,186	44,483	47,091	44,572	49,931	28,398	131.9%	14,084	15,454	17,477	24,450	25,946	28,331	29,464	26,869	30,297	16,213	115.1%	6,297	6,836	7,942	10,916	12,537	14,357	15,576	15,722	17,642	11,345	180.2%	1,152	1,283	1,421	1,610	1,703	1,795	2,051	1,981	1,992	840	72.9%
B病院平均	3,076	3,368	3,834	3,361	3,653	3,422	3,364	4,052	4,161	1,085	35.3%	2,012	2,208	2,497	2,223	2,359	2,179	2,105	2,443	2,525	513	25.5%	900	977	1,135	992	1,140	1,104	1,113	1,429	1,470	571	63.4%	165	183	203	146	155	138	147	180	166	1	0.9%
輪番病院 (A・B病院以外)	23,885	24,538	27,682	20,536	15,612	12,445	12,238	15,381	13,993	▲9,892	▲41.4%	14,544	15,287	17,212	11,963	8,845	6,667	6,360	8,096	7,495	▲7,049	▲48.5%	8,134	8,100	9,154	7,469	5,815	4,950	5,047	6,305	5,630	▲2,504	▲30.8%	1,207	1,151	1,316	1,104	952	828	831	980	868	▲339	▲28.1%
輪番病院平均	995	1,022	1,153	1,141	867	732	720	810	700	▲296	▲29.7%	606	637	717	630	491	392	374	426	375	▲231	▲38.2%	339	338	381	393	323	291	297	332	282	▲57	▲16.9%	50	48	55	58	50	49	49	52	43	▲7	▲13.7%
救命救急センター	4,702	5,161	6,408	8,428	8,349	8,138	8,496	7,325	6,550	1,848	39.3%	577	858	996	1,264	1,007	1,164	1,050	819	539	▲38	▲6.6%	1,190	1,344	1,833	2,605	2,315	2,554	2,738	2,249	1,684	494	41.5%	2,935	2,959	3,579	4,559	5,027	4,420	4,708	4,257	4,327	1,392	47.4%
救命救急センター 平均	940	860	915	1,054	1,044	1,017	1,062	916	728	▲213	▲22.6%	115	143	142	158	126	146	131	102	60	▲56	▲48.1%	238	224	262	326	289	319	342	281	187	▲51	▲21.4%	587	493	511	570	628	553	589	532	481	▲106	▲18.1%
その他の病院及び診療所	18,741	18,237	20,612	23,486	26,119	25,909	19,191	20,811	21,541	2,800	14.9%	9,595	9,561	10,144	12,509	13,898	13,095	9,356	9,386	10,539	944	9.8%	7,247	6,889	7,885	8,876	9,930	10,089	8,073	8,791	8,958	1,711	23.6%	1,899	1,787	1,983	2,101	2,291	2,725	1,762	2,634	2,044	145	7.6%
市外の病院及び診療所	9,697	10,145	10,891	11,675	12,438	12,119	11,340	11,913	12,277	2,580	26.6%	4,307	4,438	4,959	5,505	5,988	5,832	5,520	5,887	6,089	1,782	41.4%	4,405	4,618	4,798	5,090	5,342	5,198	4,859	5,032	5,224	819	18.6%	985	1,089	1,134	1,080	1,108	1,089	961	994	964	▲21	▲2.1%

<消防局統計データに基づき、医療局が作成>

\* 【 】内の数字は、体制参加病院数を表します。  
 \* 輪番病院は、小児科二次輪番のみの参加医療機関を除く

【表2】救急車搬送割合の医療機関比較 【全時間帯傷病程度別】

医療機関	全時間帯救急車搬送件数 【割合】										傷病程度別内訳																													
											軽症・その他								中等症								重症以上													
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)
全体	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0.0P	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0.0P	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0.0P	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0.0P
二次救急拠点病院 合計	56.3%	56.9%	54.3%	56.7%	58.4%	61.4%	66.5%	64.6%	67.2%	11.0P	60.0%	60.3%	57.4%	61.0%	62.8%	65.7%	71.2%	69.2%	70.9%	10.9P	52.2%	53.9%	52.8%	54.5%	56.5%	59.9%	65.0%	63.8%	66.6%	14.4P	49.2%	48.1%	44.8%	41.8%	42.7%	45.6%	49.2%	44.7%	50.7%	1.5P
二次救急拠点病院 A	39.7%	39.4%	35.6%	31.7%	31.6%	32.0%	35.7%	36.1%	37.1%	▲2.6P	40.6%	40.0%	35.1%	30.5%	30.4%	29.5%	33.2%	35.1%	35.2%	▲5.4P	37.9%	38.8%	37.0%	33.8%	33.3%	34.7%	38.7%	38.4%	39.2%	1.3P	40.9%	38.5%	35.0%	31.1%	32.3%	34.9%	36.6%	32.3%	38.7%	▲2.2P
二次救急拠点病院 B	16.5%	17.5%	18.7%	25.0%	26.8%	29.3%	30.8%	28.5%	30.1%	1.4	19.4%	20.3%	22.3%	30.5%	32.4%	36.3%	38.0%	34.2%	35.7%	16.3P	14.3%	15.0%	15.8%	20.7%	23.3%	25.2%	26.3%	25.4%	27.4%	13.1P	8.3%	9.5%	9.8%	10.6%	10.4%	10.8%	12.6%	12.4%	12.0%	3.7P
輪番病院 (A・B病院以外)	18.3%	18.2%	19.3%	13.9%	10.4%	8.2%	8.0%	9.8%	8.4%	▲9.9P	20.0%	20.1%	22.0%	14.9%	11.1%	8.5%	8.2%	10.3%	8.8%	▲11.2P	18.5%	17.8%	18.2%	14.1%	10.8%	8.7%	8.5%	10.2%	8.7%	▲9.8P	8.7%	8.6%	9.1%	7.3%	5.8%	5.0%	5.1%	6.1%	5.2%	▲3.5P
救命救急センター	3.6%	3.8%	4.5%	5.7%	5.6%	5.4%	5.6%	4.7%	3.9%	0.3P	0.8%	1.1%	1.3%	1.6%	1.3%	1.5%	1.4%	1.0%	0.6%	▲0.2P	2.7%	3.0%	3.7%	4.9%	4.3%	4.5%	4.6%	3.6%	2.6%	▲0.1P	21.2%	22.0%	24.7%	30.0%	30.7%	26.5%	28.9%	26.6%	26.0%	4.8P
その他の病院及び診療所	14.4%	13.5%	14.4%	15.9%	17.4%	17.1%	12.5%	13.3%	13.0%	▲1.4P	13.2%	12.6%	13.0%	15.6%	17.4%	16.8%	12.1%	11.9%	12.4%	▲0.8P	16.5%	15.2%	15.7%	16.8%	18.4%	17.7%	13.6%	14.2%	13.9%	▲2.6P	13.7%	12.9%	14.3%	15.2%	16.6%	19.7%	12.7%	19.0%	12.3%	▲1.4P
市外の病院及び診療所	7.4%	7.5%	7.6%	7.9%	8.3%	8.0%	7.4%	7.6%	7.4%	▲0.0P	5.9%	5.8%	6.3%	6.9%	7.5%	7.5%	7.1%	7.5%	7.2%	1.2P	10.0%	10.2%	9.6%	9.6%	9.9%	9.1%	8.2%	8.1%	8.1%	▲1.9P	7.1%	7.9%	8.2%	7.8%	8.0%	7.9%	6.9%	7.2%	5.8%	▲1.3P

<消防局統計データに基づき、医療局が作成>





【表3】救急車搬送件数の医療機関比較 【夜間・休日の重症度別】

① 「増減（28年度対20年度比）」は、搬送件数の増減とその増減比を表す  
 ② 重症度の判定は、各医療機関の医師による初見時の判定（救急隊収容書）による  
 ③ この表の夜間、休日の定義（＝救急患者受入実績加算の積算根拠となる時間）  
 ・夜間：午後5時から翌日午前9時まで  
 ・休日：午前9時から午後5時まで  
 ④ この表の救急車搬送件数は、横浜市の救急隊が救急搬送した件数であり、他の自治体の救急車搬送件数は含まない

（単位：件）

医療機関	夜間・休日の救急車搬送件数 合計											軽 症・その他								中等症								重症以上																
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (22年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (22年度対28年度比)				
全 体	86,897	89,995	93,758	94,646	95,353	99,175	99,537	101,934	108,459	18,464	24.8%	51,575	54,032	54,879	54,848	54,511	54,716	54,097	55,232	60,136	8,561	16.6%	26,507	27,577	29,822	30,753	30,999	33,775	35,268	36,669	37,926	10,349	43.1%	8,815	8,386	9,057	9,045	9,843	10,684	10,172	10,033	10,397	1,582	17.9%
二次救急拠点病院 合計	50,444	53,043	53,381	57,589	58,765	65,488	67,713	75,208	75,208	24,764	▲50.9%	31,655	33,470	32,747	35,719	35,923	38,656	39,249	38,290	43,850	12,195	31.0%	14,480	15,484	16,568	17,874	18,445	21,752	23,551	24,159	26,068	11,588	80.0%	4,309	4,089	4,066	3,996	4,397	5,080	4,913	4,832	5,290	1,201	29.4%
二次救急拠点病院 A	35,535 [11]	36,595 [11]	34,575 [11]	31,654 [10]	32,157 [10]	34,349 [11]	36,856 [11]	37,666 [11]	41,757 [11]	6,222	17.5%	21,549	22,185	19,781	17,508	17,574	17,556	18,638	19,052	21,811	262	▲1.7%	10,437	11,134	11,611	11,159	11,131	12,869	14,475	14,918	15,859	5,422	51.9%	3,549	3,276	3,183	2,987	3,452	3,924	3,743	3,696	4,087	538	15.2%
A病院平均	3,230	3,327	3,143	3,165	3,216	3,123	3,351	3,424	3,796	566	17.5%	1,959	2,017	1,798	1,751	1,757	1,596	1,694	1,732	1,983	24	1.2%	949	1,012	1,056	1,116	1,113	1,170	1,316	1,356	1,442	493	51.9%	323	298	289	299	345	357	340	336	372	49	15.2%
二次救急拠点病院 B	14,909 [7]	16,448 [7]	18,806 [7]	25,935 [11]	26,608 [11]	31,139 [13]	30,857 [14]	29,615 [11]	33,451 [12]	18,542	124.4%	10,106	11,285	12,966	18,211	18,349	21,100	20,611	19,238	22,039	11,933	118.1%	4,043	4,350	4,957	6,715	7,314	8,883	9,076	9,241	10,209	5,859	134.7%	760	813	883	1,009	945	1,156	1,170	1,136	1,203	443	58.3%
B病院平均	2,130	2,350	2,687	2,358	2,419	2,395	2,204	2,692	2,788	438	18.6%	1,444	1,612	1,852	1,656	1,668	1,623	1,472	1,749	1,837	393	27.2%	578	621	708	610	665	683	648	840	851	273	47.3%	109	116	126	92	86	89	84	103	100	▲8	▲7.7%
輪番病院（A・B病院以外）	15,353 [24]	15,644 [24]	16,934 [24]	11,579 [18]	11,055 [18]	7,320 [17]	6,852 [17]	8,704 [19]	7,694 [20]	▲7,659	▲49.9%	10,134	10,473	11,429	7,217	6,858	4,328	3,940	5,099	4,590	▲5,544	▲56.2%	4,547	4,566	4,815	3,798	3,588	2,549	2,488	3,083	2,676	▲1,871	▲41.1%	672	605	690	564	609	443	424	522	428	▲244	▲36.3%
輪番病院平均	640	652	706	643	614	431	403	458	385	▲255	▲39.9%	422	436	476	380	381	255	232	268	230	▲193	▲45.6%	189	190	201	200	199	150	146	162	134	▲56	▲29.4%	28	25	29	30	32	26	25	27	21	▲7	▲23.6%
救命救急センター	3,321 [5]	3,517 [6]	4,488 [7]	5,966 [8]	5,936 [8]	6,072 [8]	5,887 [8]	5,353 [8]	4,557 [9]	1,236	37.2%	434	611	720	932	744	858	742	625	400	▲34	▲7.8%	799	880	1,259	1,824	1,622	1,852	1,883	1,612	1,116	317	39.7%	2,088	2,026	2,509	3,210	3,570	3,362	3,262	3,116	3,041	953	45.6%
救命救急センター平均	664	586	641	746	742	759	736	669	506	▲158	▲23.8%	87	102	103	117	93	107	93	78	44	▲42	▲48.8%	160	147	180	228	203	232	235	202	124	▲36	▲22.4%	418	338	358	401	446	420	408	390	338	▲80	▲19.1%
その他の病院等（A、B、輪番病院以外）	17,779	17,791	18,955	19,512	19,597	20,295	19,085	20,596	21,000	3,221	18.1%	9,352	9,478	9,983	10,980	10,986	10,874	10,166	11,218	11,296	1,818	19.2%	6,681	6,647	7,180	7,257	7,344	7,622	7,346	7,815	8,066	1,419	20.7%	1,746	1,666	1,792	1,275	1,267	1,799	1,573	1,563	1,638	▲108	▲1.7%
その他の病院及び診療所	11,272	11,060	11,689	11,606	11,042	12,165	11,529	12,632	12,798	1,526	13.5%	6,281	6,305	6,431	6,973	6,561	6,675	6,175	6,959	6,857	576	9.2%	3,861	3,753	4,167	4,035	3,899	4,348	4,357	4,682	4,835	974	25.2%	1,130	1,002	1,091	598	582	1,142	997	991	1,106	104	▲2.1%
市外の病院及び診療所	6,507	6,731	7,266	7,906	8,555	8,130	7,556	7,964	8,202	1,695	26.0%	3,071	3,173	3,552	4,007	4,425	4,199	3,991	4,259	4,439	1,368	44.5%	2,820	2,894	3,013	3,222	3,445	3,274	2,989	3,133	3,231	411	14.6%	616	664	701	677	685	657	576	572	532	▲84	▲13.6%

\* 【 】内の数字は、体制参加病院数を表します。  
 \* 輪番病院は、小児科二次輪番のみの参加医療機関を除く

＜消防局統計データに基づき医療局が作成＞

【表4】救急車搬送割合の医療機関比較 【夜間・休日、重症度別】

医療機関	夜間・休日の救急車搬送件数 合計											軽 症・その他								中等症								重症以上												
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	増減 (20年度対28年度比)
全 体	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0.0P	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0.0P	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0.0P	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0.0P
二次救急拠点病院 合計	58.1%	58.9%	56.9%	60.8%	61.6%	66.0%	68.0%	66.0%	69.3%	▲11.3P	61.4%	61.9%	59.7%	65.1%	65.9%	70.6%	72.6%	69.3%	72.9%	▲11.5P	54.6%	56.1%	55.6%	58.1%	59.5%	64.4%	66.8%	65.9%	68.7%	▲14.1P	48.9%	48.8%	44.9%	44.2%	44.7%	47.5%	48.3%	48.2%	50.9%	▲2.0P
二次救急拠点病院 A	40.9%	40.7%	36.9%	33.4%	33.7%	34.6%	37.0%	37.0%	38.5%	2.4P	41.8%	41.1%	36.0%	31.9%	32.2%	32.1%	34.5%	34.5%	36.3%	5.5P	39.4%	40.4%	38.9%	36.3%	35.9%	38.1%	41.0%	40.7%	41.8%	▲2.4P	40.3%	39.1%	35.1%	33.0%	35.1%	36.7%	36.8%	39.3%	1.0P	
二次救急拠点病院 B	17.2%	18.3%	20.1%	27.4%	27.9%	31.4%	31.0%	29.1%	30.8%	▲1.4	19.6%	20.9%	23.6%	33.2%	33.7%	38.6%	38.1%	34.8%	36.6%	▲17.1P	15.3%	15.8%	16.6%	21.8%	23.6%	26.3%	25.7%	25.2%	26.9%	▲11.7P	8.6%	9.7%	9.7%	11.2%	9.6%	10.8%	11.5%	11.3%	11.6%	▲2.9P
輪番病院（A・B病院以外）	17.7%	17.4%	18.1%	12.2%	11.6%	7.4%	6.9%	8.5%	7.1%	10.6P	19.6%	19.4%	20.8%	13.2%	12.6%	7.9%	7.3%	9.2%	7.6%	12.0P	17.2%	16.6%	16.1%	12.4%	11.6%	7.5%	7.1%	8.4%	7.1%	10.1P	7.6%	7.2%	7.6%	6.2%	6.2%	4.1%	4.2%	5.2%	4.1%	3.5P
その他の病院等（A、B、輪番病院以外）	20.5%	19.8%	20.2%	20.6%	20.6%	20.5%	19.2%	20.2%	19.4%	1.1P	18.1%	17.5%	18.2%	20.0%	20.2%	19.9%	18.8%	20.3%	18.8%	▲0.7P	25.2%	24.1%	24.1%	23.6%	23.7%	22.6%	20.8%	21.3%	21.3%	3.9P	19.8%	19.9%	19.8%	14.1%	12.9%	16.8%	15.5%	15.6%	15.8%	4.1P
その他の病院及び診療所	13.0%	12.3%	12.5%	12.3%	11.6%	12.3%	11.6%	12.4%	11.8%	1.2P	12.2%	11.7%	11.7%	12.7%	12.0%	12.2%	11.4%	12.6%	11.4%	0.8P	14.6%	13.6%	14.0%	13.1%	12.6%	12.9%	12.4%	12.8%	12.7%	1.8P	12.8%	11.4%	12.4%	6.8%	6.6%	13.0%	11.3%	11.2%	12.5%	1.0P
市外の病院及び診療所	7.5%	7.5%	7.7%	8.4%	9.0%	8.2%	7.8%	7.8%	7.6%	▲0.1P	6.0%	5.9%	6.5%	7.3%	8.1%	7.7%	7.4%	7.7%	7.4%	▲1.4P	10.6%	10.5%	10.1%	10.5%	11.1%	9.7%	8.5%	8.5%	8.5%	2.1P	7.0%	7.5%	8.0%	7.7%	7.8%	7.5%	6.5%	6.5%	6.0%	1.0P

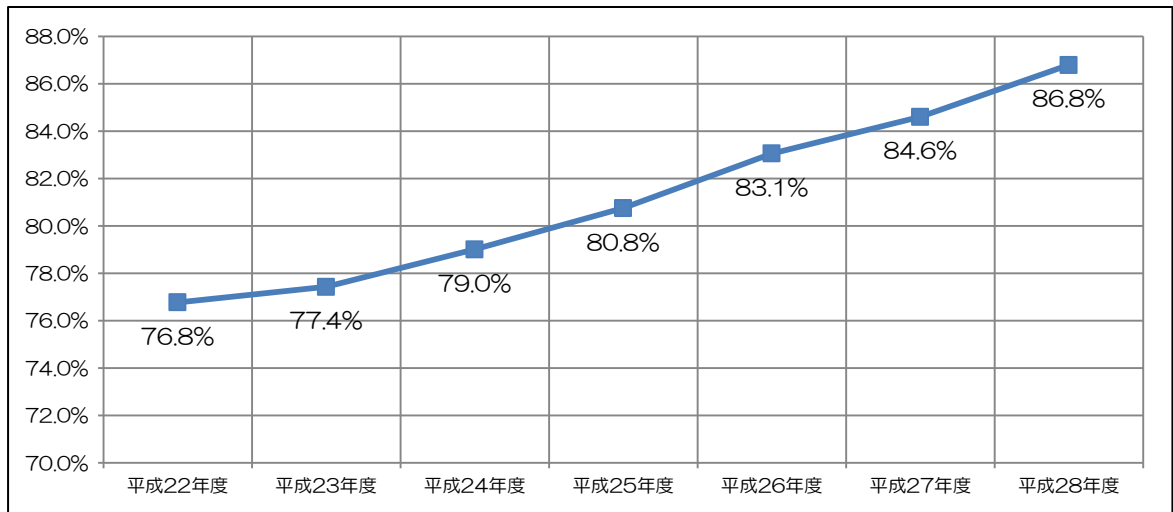
＜消防局統計データに基づき医療局が作成＞



### 3 救急搬送の医療機関応需

#### (1) 照会回数1回の割合

救急隊から医療機関への照会回数1回の割合は、平成28年度は86.8%となっており、上昇の傾向にあります。

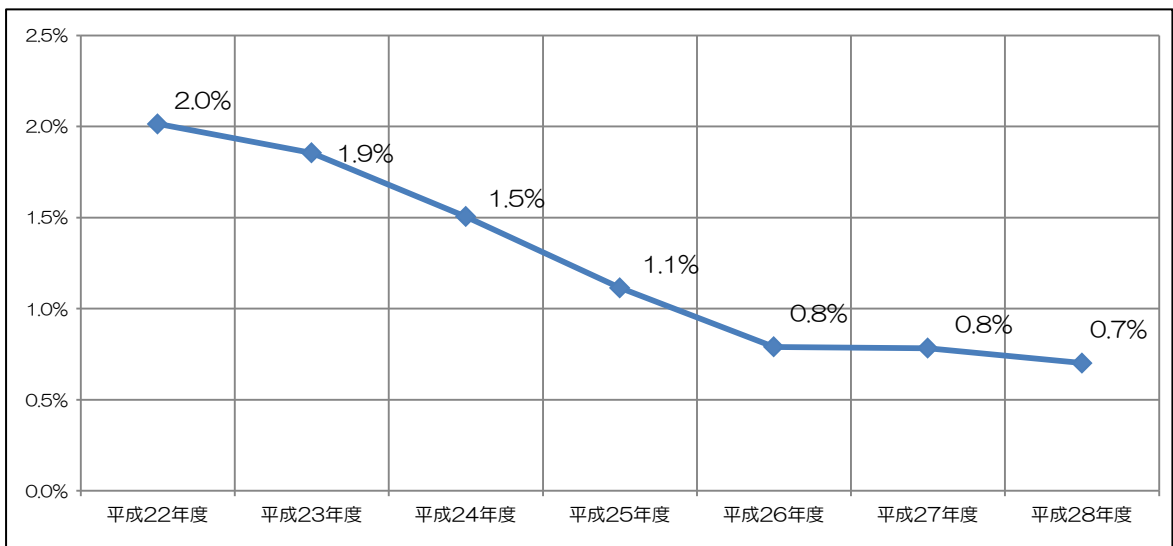


年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
割合	76.8%	77.4%	79.0%	80.8%	83.1%	84.6%	86.8%
対28年度	▲10.0P	▲9.4P	▲7.8P	▲6.0P	▲3.7P	▲2.2P	-

<消防局統計データに基づき、医療局が作成>

#### (2) 照会回数5回以上の割合

搬送困難案件である、救急隊から医療機関への照会回数5回以上の割合は、平成28年度は0.7%となっており、年々下降の傾向にあります。



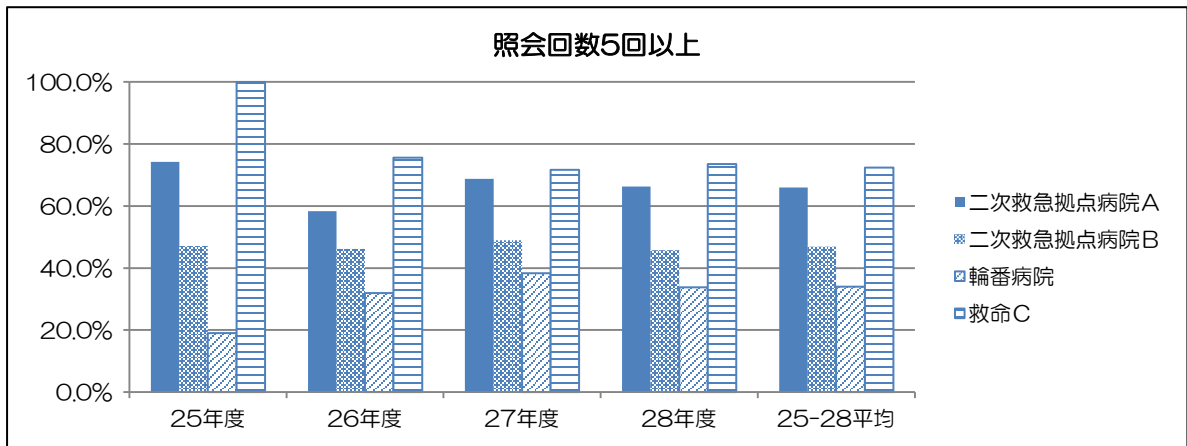
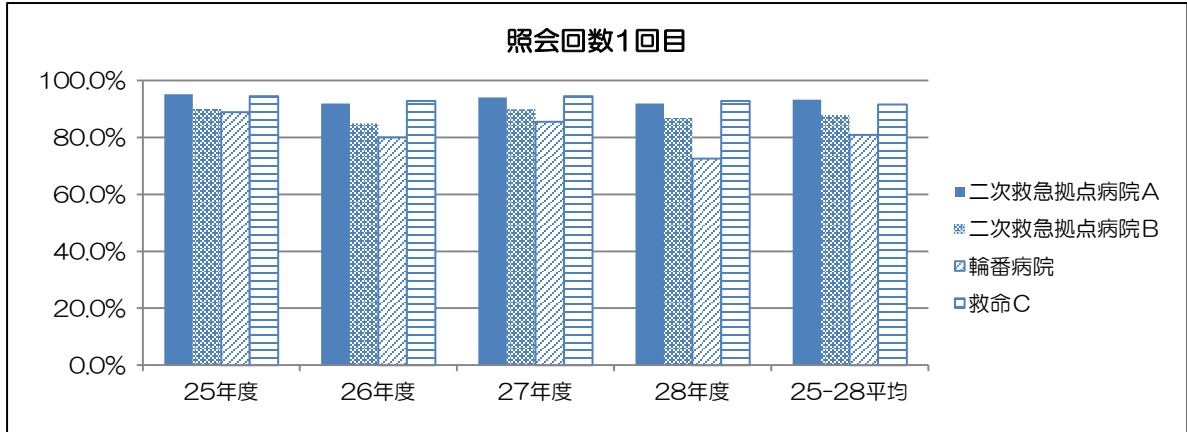
年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
割合	2.0%	1.9%	1.5%	1.1%	0.8%	0.8%	0.7%
対28年度	1.3P	1.2P	0.8P	0.4P	0.1P	0.1P	-

<消防局統計データに基づき、医療局が作成>

### (3) 医療機関別の応需率

救急隊から医療機関への医療機関別の応需率は、照会回数に関わらず、二次救急拠点病院Aと救命救急センターが高く、次いで二次救急拠点病院B、輪番病院の順となっています。

また、全医療機関ともに、照会回数1回目に比べて照会回数5回目の方が、応需率が低い状況となっています。



体制名	照会回数1														
	25年度			26年度			27年度			28年度			25-28平均		
	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率
二次救急拠点病院A	42,601	2,202	95.1%	46,554	4,099	91.9%	48,437	3,076	94.0%	48,915	4,305	91.9%	46,627	3,421	93.2%
二次救急拠点病院B	36,508	4,095	89.9%	36,563	6,508	84.9%	36,739	4,159	89.8%	37,754	5,763	86.8%	36,891	5,131	87.8%
輪番病院	9,651	1,210	88.9%	13,483	3,390	79.9%	12,957	2,204	85.5%	12,099	4,582	72.5%	12,048	2,847	80.9%
救命救急センター	7,118	416	94.5%	7,235	563	92.8%	5,008	291	94.5%	5,264	411	92.8%	6,441	599	91.5%

体制名	照会回数2~4														
	25年度			26年度			27年度			28年度			25-28平均		
	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率
二次救急拠点病院A	8,413	7,872	51.7%	7,666	4,301	64.1%	6,829	5,692	54.5%	7,054	3,549	66.5%	7,491	5,354	58.3%
二次救急拠点病院B	5,798	12,355	31.9%	8,391	8,410	49.9%	7,572	8,667	46.6%	7,681	5,758	57.2%	7,361	8,798	45.6%
輪番病院	2,302	4,723	32.8%	2,595	4,206	38.2%	2,406	4,528	34.7%	1,783	2,499	41.6%	2,272	3,989	36.3%
救命救急センター	1,564	1,359	53.5%	1,199	711	62.8%	2,453	749	76.6%	691	349	66.4%	1,192	613	66.0%

体制名	照会回数5以上														
	25年度			26年度			27年度			28年度			25-28平均		
	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率	受入	不応需	応需率
二次救急拠点病院A	118	41	74.2%	283	202	58.4%	532	242	68.7%	487	248	66.3%	355	183	66.0%
二次救急拠点病院B	24	27	47.1%	285	332	46.2%	258	269	49.0%	283	335	45.8%	213	241	46.9%
輪番病院	4	17	19.0%	106	226	31.9%	98	158	38.3%	122	239	33.8%	83	160	34.0%
救命C	6	0	100.0%	62	20	75.6%	79	50	61.2%	61	22	73.5%	52	23	69.3%

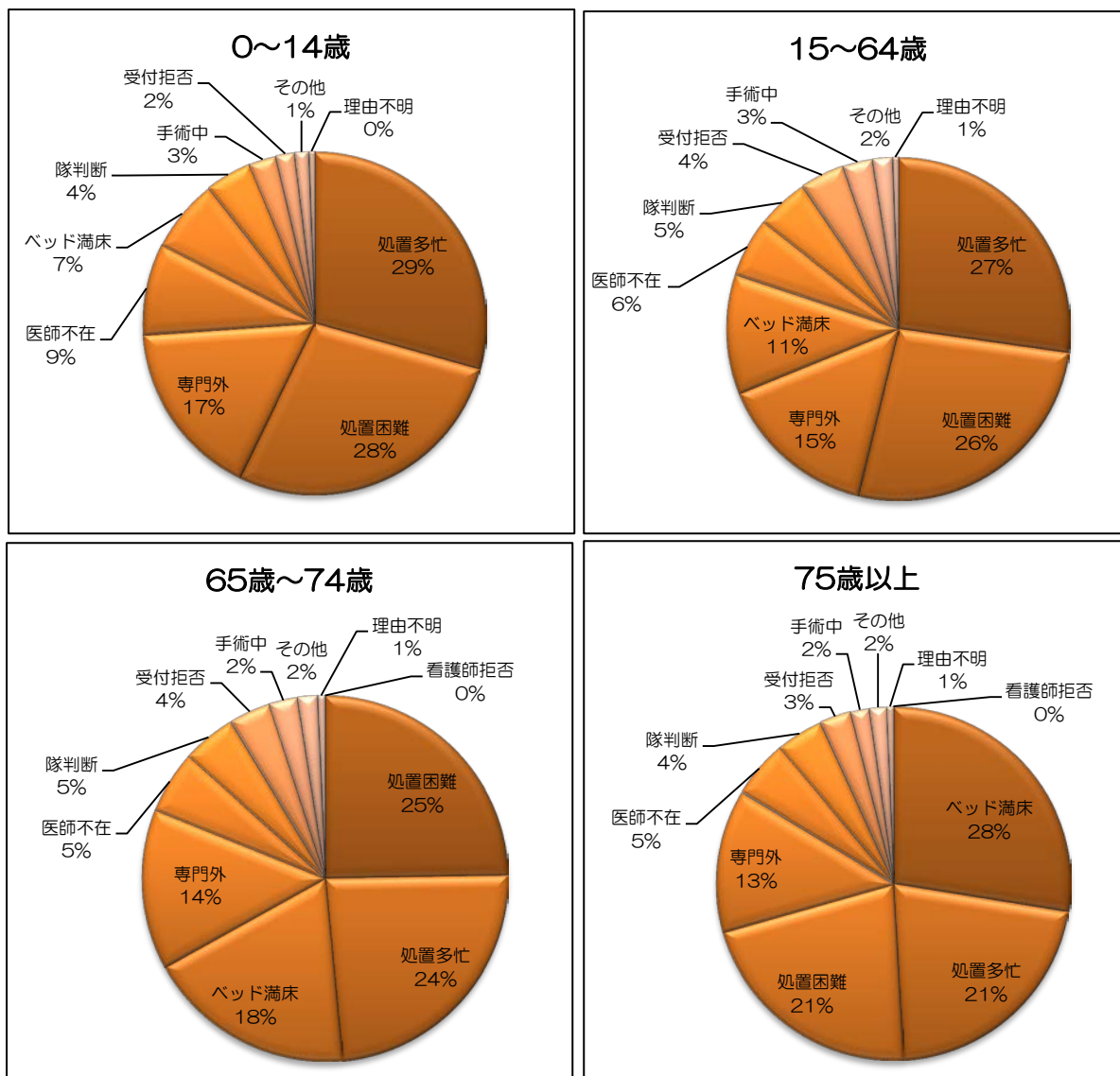
< 消防局統計データに基づき、医療局が作成 >



#### (4) 救急搬送の年代別の受入不可理由

救急搬送の受入不可理由は、全年代ともに「処置多忙」・「処置困難」が高い割合となっています。

一方で、高齢者（65歳以上）は「ベッド満床」の割合も高くなっており、特に、75歳以上については、「ベッド満床」が受入不可理由の一番となっています。



	処置多忙	処置困難	専門外	ベッド満床	医師不在	隊判断	受付拒否	手術中	その他	理由不明	看護師拒否	合計
0~14歳	776	737	442	182	229	117	46	68	34	15	0	2,646
15~64歳	4,018	3,912	2,222	1,655	819	725	616	414	276	86	0	14,743
65~74歳	1,173	1,219	697	910	274	234	182	124	86	32	1	4,932
75歳~以上	3,006	3,002	1,821	3,847	740	599	399	241	224	83	1	13,963

＜消防局統計データに基づき、医療局が作成＞

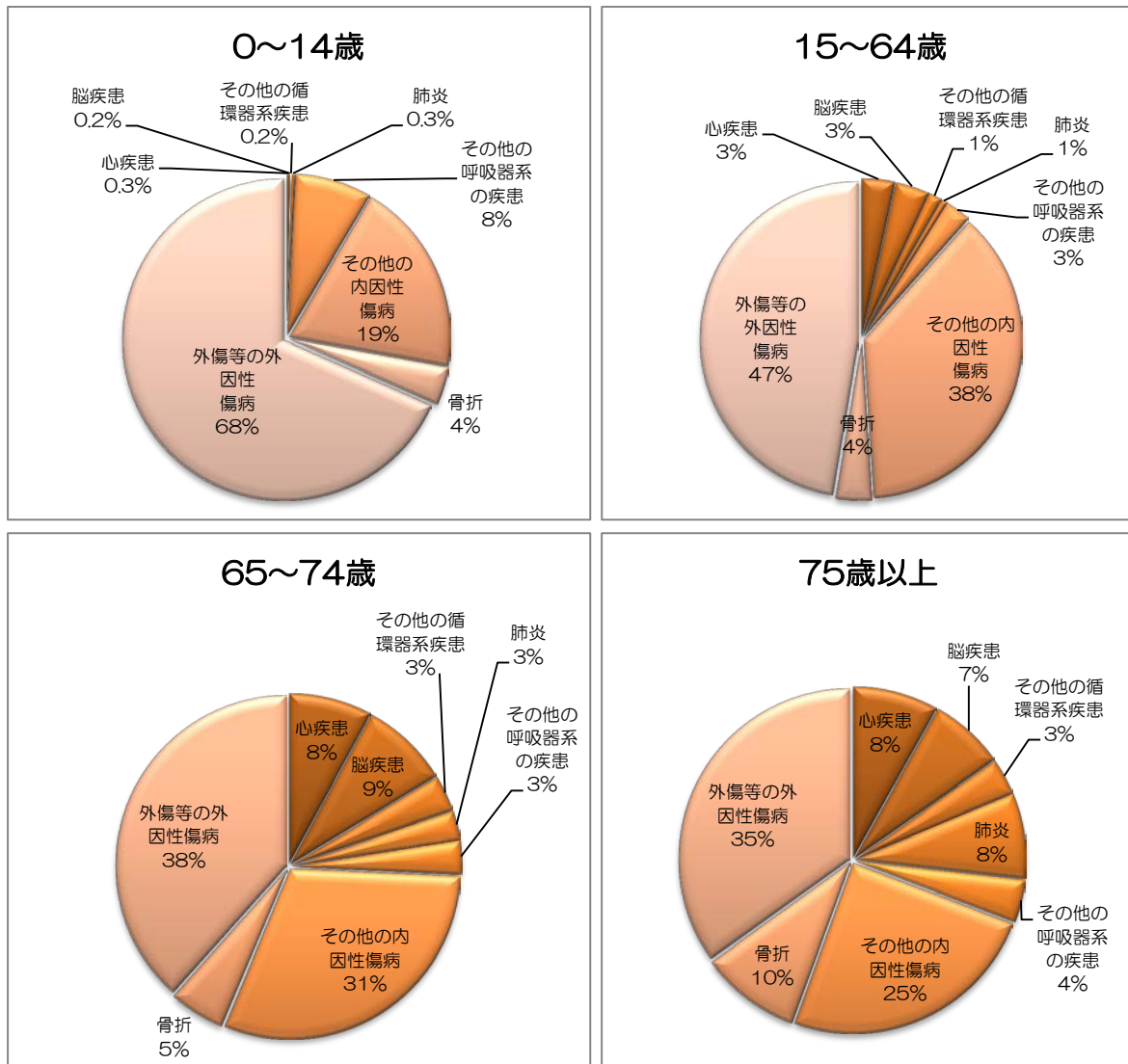




## 4 救急搬送と疾患状況

### (1) 年齢別の疾患割合

救急搬送された高齢者（65歳以上の）の疾患の特徴としては、他の年代に比べ、「脳疾患」・「心疾患」の割合が高く、特に75歳以上の方は、「肺炎」・「骨折」の割合が高くなっています。



	0～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳以上	合計
心疾患	26	1,396	1,346	3,646	6,414
脳疾患	8	1,415	1,444	3,191	6,058
その他の循環器系疾患	11	580	589	1,552	2,732
肺炎	29	262	476	3,611	4,378
その他の呼吸器系の疾患	700	1,093	539	1,807	4,139
その他の内因性傷病	1,780	15,424	5,232	11,092	33,528
骨折	349	1,493	899	4,251	6,992
外傷等の外因性傷病	6,263	19,510	6,567	15,650	47,990

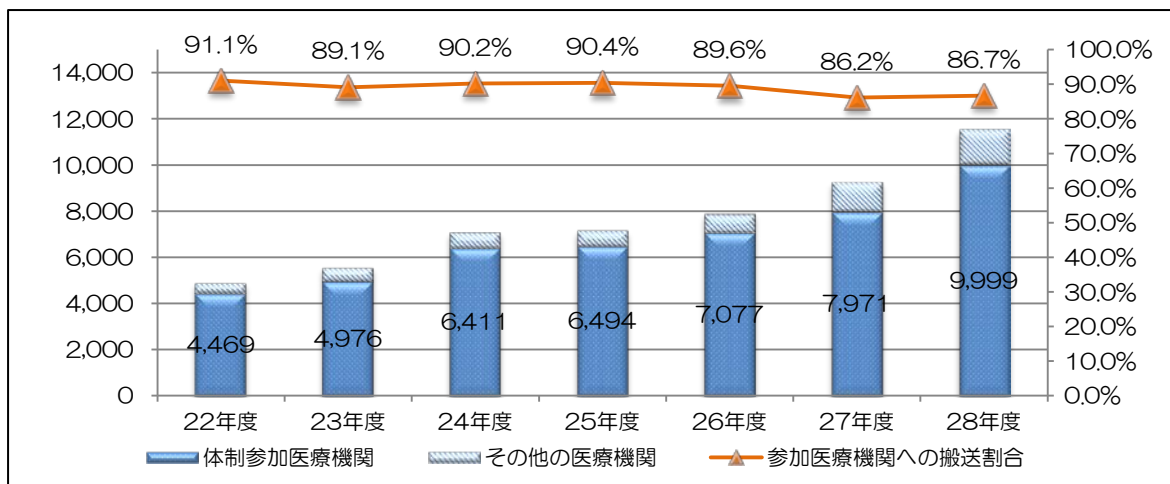
<消防局統計データに基づき、医療局が作成>

## (2) 疾患別救急医療体制の受入状況

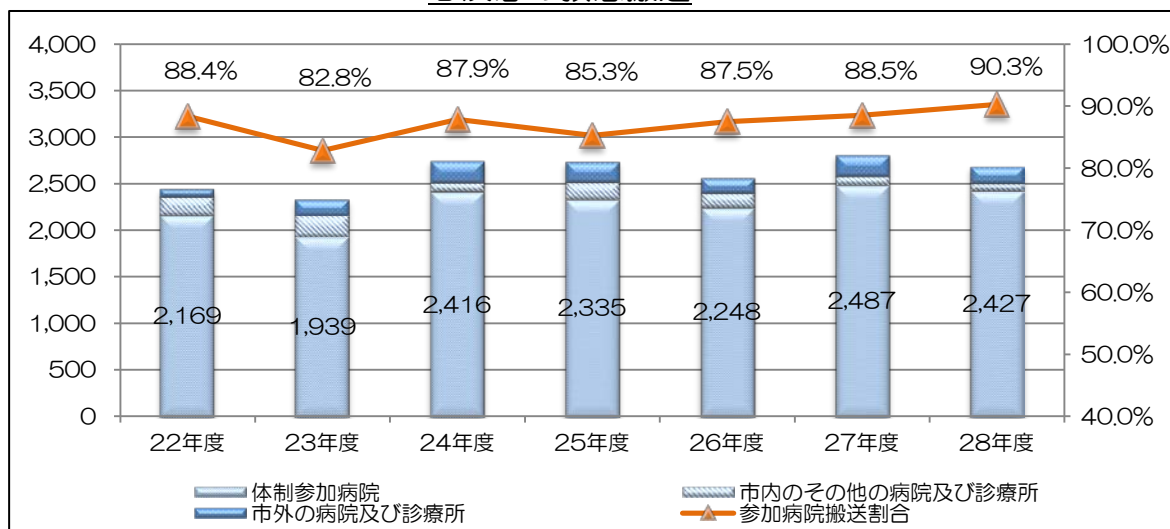
平成 21 年度に脳血管疾患の救急医療体制、平成 22 年度に心疾患及び外傷（整形外科・脳神経外科）の救急医療体制を構築しています。

平成 28 年度における体制参加医療機関への救急搬送の割合は、脳血管疾患体制が 86.7%、心疾患体制が 90.3%、外傷体制が 76.1%となっており、高い割合で推移しています。

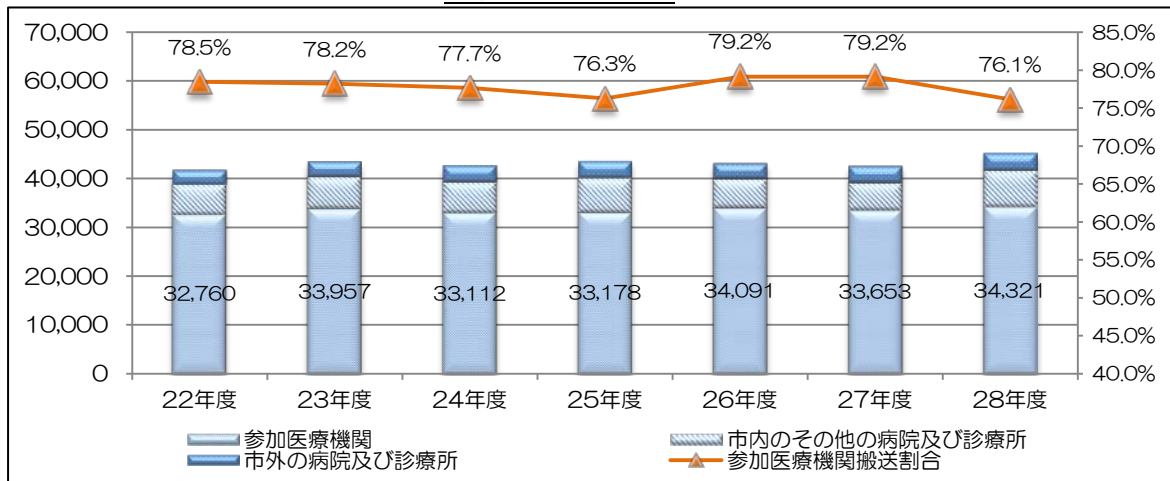
《脳血管疾患の救急搬送》



《心疾患の救急搬送》



《外傷の救急搬送》



＜消防局統計データに基づき、医療局が作成＞

## ■ 高齢者救急医療体制の強化検討専門部会の設置

### 1 趣旨

超高齢社会における救急医療体制の検証と強化に向けた検討をするにあたり、本検討委員会の下部組織として専門部会を設置します。

専門部会の設置を通じて、より専門的かつ医学的な見地から、現行の本市救急医療体制の検証を行い、また医療従事者である現場の声をより反映させる形で、救急医療体制の強化に向けた検討を進めていきます。

なお、専門部会での検討結果は本委員会に報告がなされ、最終的には、本委員会において審議を行います。

### 2 専門部会の構成

7名程度

◇部会長 1名

（横浜市救急医療検討委員会運営要綱第7条に基づき検討委員会委員長が指名）

◇部会員 6名程度

（検証の中心と想定する二次救急を担う拠点病院A・拠点病院B・輪番病院や、かかりつけ医（医師会）等から幅広く選定）

◇医師を基本に構成

### 3 専門部会の検討事項

- ・ 現行の救急医療体制の検証
- ・ 超高齢社会における救急医療の受入体制の強化



## ■ 検討スケジュール

今回の横浜市救急医療検討委員会では、29年度から30年度の2か年に渡り、超高齢社会における救急医療体制の強化に向け、必要な協議を行っていただきます。

協議結果については、30年度に最終報告を第8次提言としてとりまとめたいただきたいと考えています。

### 【29年度】

- 29年9月 第1回救急医療検討委員会  
・検討課題、検討スケジュールの決定
- 29年10月 第1回専門部会  
・課題の抽出、検討
- 30年2月 第2回専門部会  
・課題の抽出、検討  
・中間報告のとりまとめ
- 30年3月 第2回救急医療検討委員会  
・専門部会から中間報告  
・中間とりまとめ

### 【30年度】

- 30年5月 第1回専門部会  
・課題の整理、解決策の検討
- 30年7月 第1回救急医療検討委員会  
・課題の整理、解決策の検討  
・第8次提言の検討
- 30年12月 第2回救急医療検討委員会  
・第8次提言の最終確認
- 31年1月 第8次提言を市長に提出